

2008年3月期決算説明会  
参考データ集

## 利払い・償却・探鉱費前利益(EBIDAX)

(百万円)	07年3月期	08年3月期	増減	備考
純利益	165,091	173,245	8,154	P/L
少数株主損益	7,932	21,204	13,272	P/L
減価償却相当額	143,525	134,944	△8,581	
減価償却費	30,599	36,181	5,582	C/F コンセッション契約及び販管費に係る減価償却費
のれん償却額	6,977	6,616	△361	C/F
生産物回収勘定(資本支出)の 回収額	105,949	92,147	△13,802	C/F PS契約に係る減価償却費相当額
探鉱費相当額	26,837	57,785	30,948	
探鉱費	17,688	34,095	16,407	P/L コンセッション契約に係る探鉱費
生産物回収勘定引当金操入額	6,176	20,586	14,410	P/L PS契約に係る探鉱費相当額
探鉱事業引当金操入額	2,973	3,104	131	P/L PS契約に係る探鉱費相当額
重要な非現金項目	△21,307	△4,467	16,840	
法人税等調整額	△19,655	△5,502	14,153	P/L
為替差損益	△1,652	1,035	2,687	C/F
税引後ネット支払利息	△291	△62	229	P/L 税引後の支払利息－受取利息
<b>EBIDAX</b>	<b>321,787</b>	<b>382,649</b>	<b>60,862</b>	

## 生産物回収勘定の増減推移

(百万円)

	07年3月期	08年3月期	うちINPEX連結	うち帝石連結
生産物回収勘定(期首)	295,075	319,149	316,894	2,255
増加:				
探鉱投資	9,791	27,459	25,292	2,167
開発投資	160,113	183,002	182,643	358
操業費	46,683	52,697	50,516	2,181
その他	16	—	—	—
減少:				
コスト回収(CAPEX)	105,949	92,147	91,892	255
コスト回収(Non-CAPEX)	86,319	106,047	103,836	2,211
その他	262	951	880	71
生産物回収勘定(期末)	319,149	383,162	378,738	4,424
生産物回収勘定引当金	51,190	71,445	68,042	3,403

## 所在地別セグメント情報

2007年4月1日～2008年3月31日

(単位:百万円)

	日本	アジア・オセアニア	ユーラシア (欧州・NIS諸国)	中東・アフリカ	米州	計	消去または 全社	連結
売上高	93,882	452,542	183,878	464,522	8,139	1,202,965	-	1,202,965
営業費用	61,950	165,836	97,842	140,492	16,101	482,223	6,530	488,754
営業利益	31,932	286,705	86,035	324,030	△7,961	720,741	(6,530)	714,211
資産	212,305	360,298	363,183	299,563	60,656	1,296,006	511,893	1,807,900

- (注) 1 国又は地域の区分は、地理的接近度及び事業活動の相互関連性によっております。
- 2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域の内訳は次のとおりであります。
- (1) アジア・オセアニア.....インドネシア、オーストラリア、東チモール、ベトナム
- (2) ユーラシア(欧州・NIS諸国).....アゼルバイジャン、カザフスタン、イギリス
- (3) 中東・アフリカ.....アラブ首長国連邦、コンゴ民主共和国、イラン、リビア、エジプト、アルジェリア、アンゴラ
- (4) 米州.....ベネズエラ、エクアドル、アメリカ合衆国、カナダ、スリナム
- 3 営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用(10,345百万円)の主なものは、のれんの償却及び一般管理部門にかかる費用であります。
- 4 資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産(515,849百万円)の主なものは、のれん、現金預金、有価証券、投資有価証券及び管理部門に係る資産であります。
- 5 地域区分の変更  
従来、地域区分は「日本」、「アジア・オセアニア」、「NIS諸国」、「中東・アフリカ」、「米州」としておりましたが、当期連結会計年度よりイギリスでのプロジェクト権益を取得したことに伴い、「NIS諸国」を「ユーラシア(欧州・NIS諸国)」に変更しております。

## LPG売上高

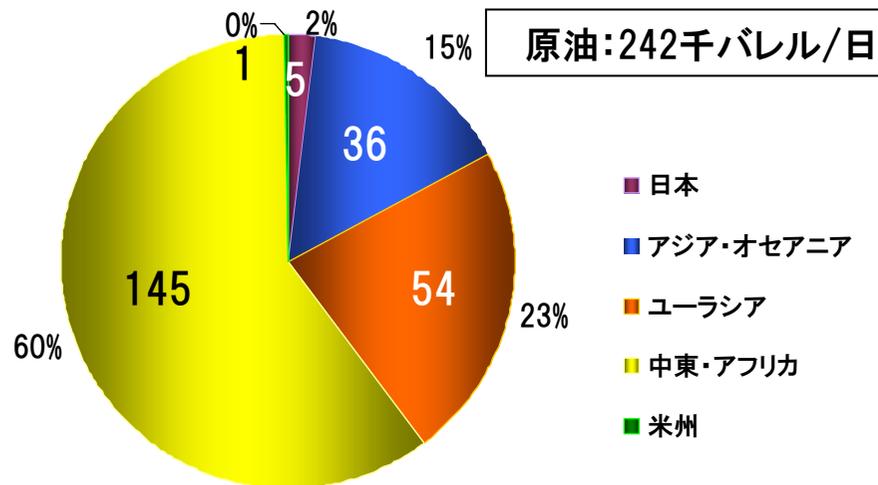
	07年3月期	08年3月期	増減	増減率
売上高 (億円)	88	121	32	37.1%

販売量 (千bbl)	1,351	1,549	198	14.7%
海外生産分平均単価 (\$/bbl)	48.76	62.00	13.24	27.2%
国内生産分平均単価 (¥/kg)	127	130	4	2.9%
平均為替 (¥/\$)	116.30	116.26	0.04円高	0.0%円高

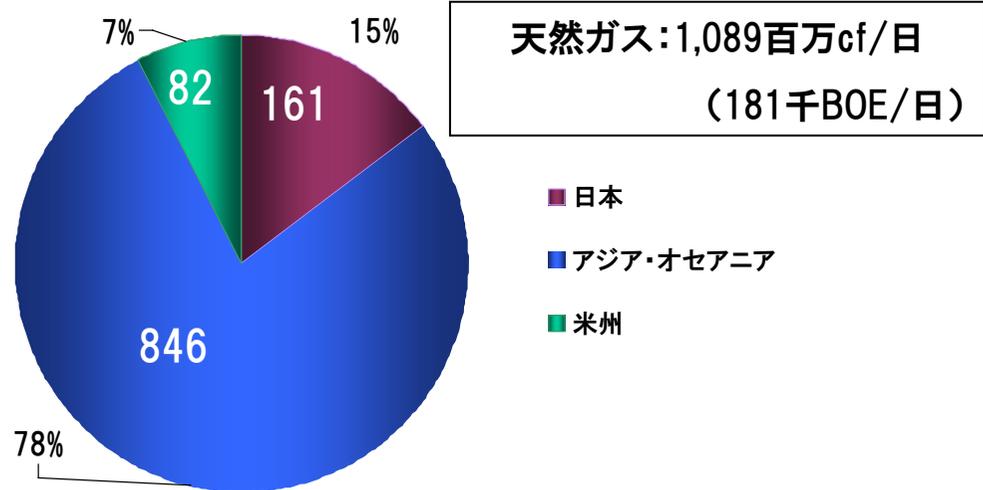
地域別販売量 (千bbl)	07年3月期	08年3月期	増減	増減率
日本	184 (17.5千ト)	183 (17.4千ト)	△1 (△0.1千ト)	△0.7%
アジア・オセアニア	1,166	1,366	199	17.1%
ユーラシア(欧州・NIS諸国)	-	-	-	-
中東・アフリカ	-	-	-	-
米州	-	-	-	-
合計	1,351	1,549	198	14.7%

# 生産量

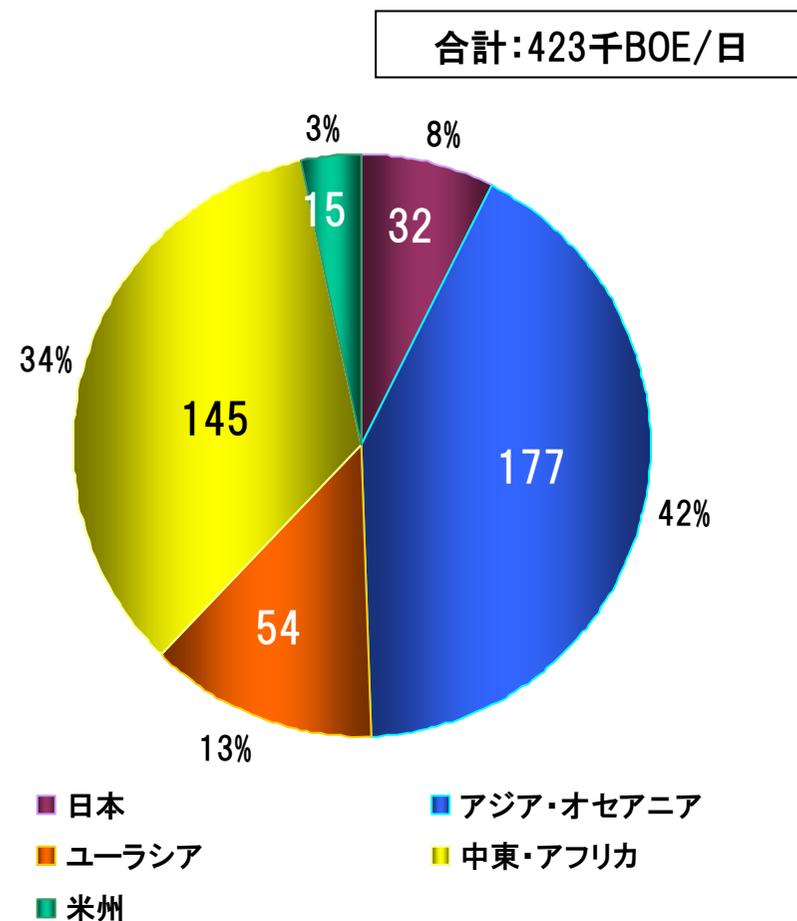
## 原油



## 天然ガス

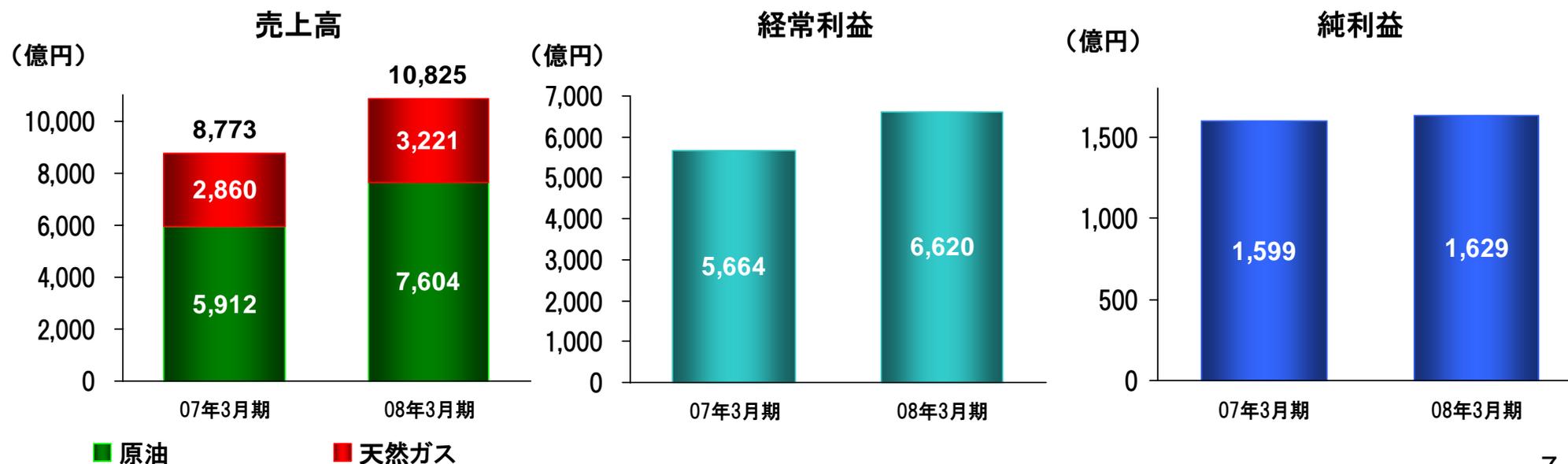


## 原油・天然ガス合計



# 国際石油開発 2008年3月期決算ハイライト

	07年3月期	08年3月期	増減	増減率
売上高(億円)	8,773	10,825	2,052	23.4%
営業利益(億円)	5,341	6,729	1,388	26.0%
経常利益(億円)	5,664	6,620	955	16.9%
純利益(億円)	1,599	1,629	30	1.9%



## 国際石油開発 原油売上高

	07年3月期	08年3月期	増減	増減率
原油売上高* (億円)	5,912	7,604	1,691	28.6%

原油販売量 (千bbl)	80,734	82,826	2,092	2.6%
平均単価 (\$/bbl)	62.40	80.46	18.06	28.9%
平均為替 (¥/\$)	116.90	113.64	3.26円高	2.8%円高

\*インドネシア国内供給義務を含む。

主にACG油田(インペックス南西カスピ海石油)の生産量増加により前期比2.6%増加。

## 国際石油開発 天然ガス売上高

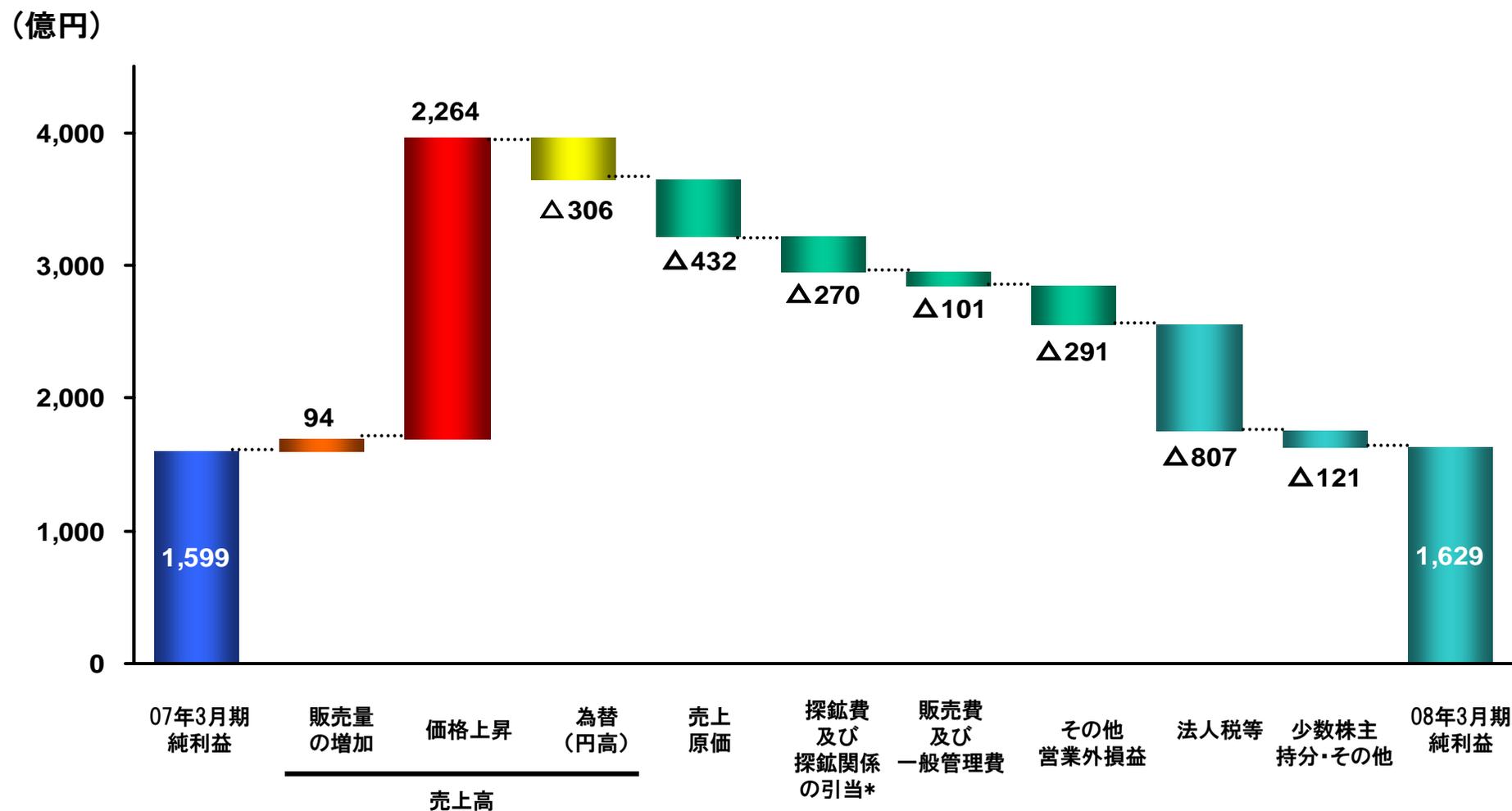
	07年3月期	08年3月期	増減	増減率
天然ガス売上高 *(億円)	2,860	3,221	360	12.6%

天然ガス販売量 (百万cf)	318,413	310,458	△7,956	△2.5%
平均単価 (\$/千cf)	7.51	8.85	1.34	17.9%
平均為替 (¥/\$)	116.91	113.68	3.23円高	2.8%円高

\*LPGを含む。

ボンタンLNGプラントからの出荷カーゴ数の減少により、前期比2.5%減少。

# 国際石油開発 純利益 増減要因分析



\*生産物回収勘定引当金繰入額及び探鉱事業引当金繰入額

## 国際石油開発 損益計算書

(億円)	07.3期	08.3期	増減	増減率	
売上高	8,773	10,825	2,052	23.4%	原油売上原価： 2,776 (増減) +453  天然ガス売上原価： 721 (増減) △20
売上原価	3,066	3,498	432	14.1%	
探鉱費	147	278	130	88.1%	ジョスリン、イクシス、ヴァンゴッホ等
販売費及び一般管理費	218	319	101	46.3%	
営業利益	5,341	6,729	1,388	26.0%	人件費、輸送費、減価償却費等
営業外収益	582	249	△333	△57.2%	
営業外費用	258	358	99	38.2%	
経常利益	5,664	6,620	955	16.9%	
法人税等及び法人税等調整額	3,989	4,797	807	20.3%	主に外国法人税
少数株主利益	75	193	117	155.2%	
純利益	1,599	1,629	30	1.9%	

## 国際石油開発 営業外収益・費用

(億円)	07.3期	08.3期	増減	増減率
営業外収益	582	249	△333	△57.2%
受取利息	121	101	△20	△16.7%
持分法による投資利益	9	8	△0	△8.1%
権益譲渡収入	335	-	△335	△100.0%
埋蔵量再評価精算益	-	40	40	-
為替差益	56	39	△17	△30.3%
その他	58	58	0	0.5%
営業外費用	258	358	99	38.2%
支払利息	115	99	△16	△13.8%
生産物回収勘定引当金繰入額	47	188	141	295.7%
探鉱事業引当金繰入額	19	19	△0	△3.1%
その他	75	50	△25	△33.6%

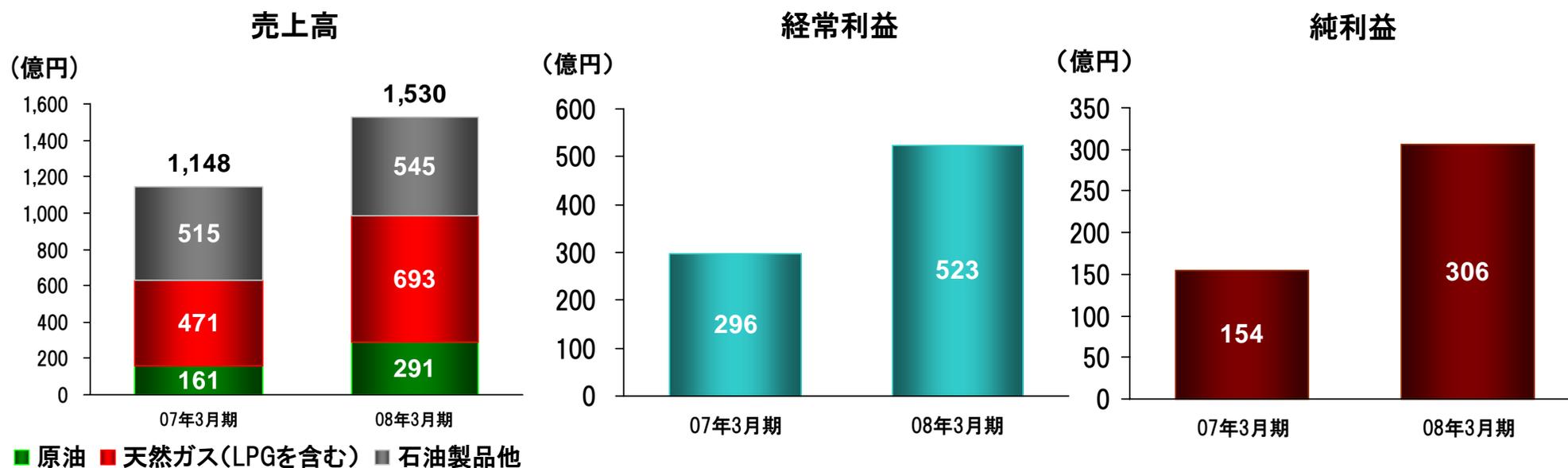
前期はイクシスの権益一部譲渡による収入

バユ・ウンダンガスプロジェクトにおける隣接鉱区との埋蔵量再評価の結果、権益比率が上昇したことに伴う精算益

マセラ鉱区での評価井掘削等による探鉱投資の増加

# 帝国石油 2008年3月期決算ハイライト

	07年3月期	08年3月期	増減	増減率
売上高(億円)	1,148	1,530	381	33.2%
営業利益(億円)	315	481	166	52.7%
経常利益(億円)	296	523	226	76.5%
純利益(億円)	154	306	152	98.4%



## 帝国石油 原油売上高

	07年3月期	08年3月期	増減	増減率
原油売上高 (億円)	161	291	129	80.4%
海外原油販売量 (千bbl)	2,371	3,194	823	34.7%
仕入販売取引相殺後(千bbl)	2,371	2,482	110	4.7%
国内原油販売量 (千kl)	27千kl	65千kl	38千kl	139.3%
海外平均単価 (\$/bbl)	53.90	67.93	14.03	26.0%
国内平均単価 (¥/kl)	45,694	62,225	16,531	36.2%
平均為替 (¥/\$)	116.83	115.82	△1.01	△0.9%

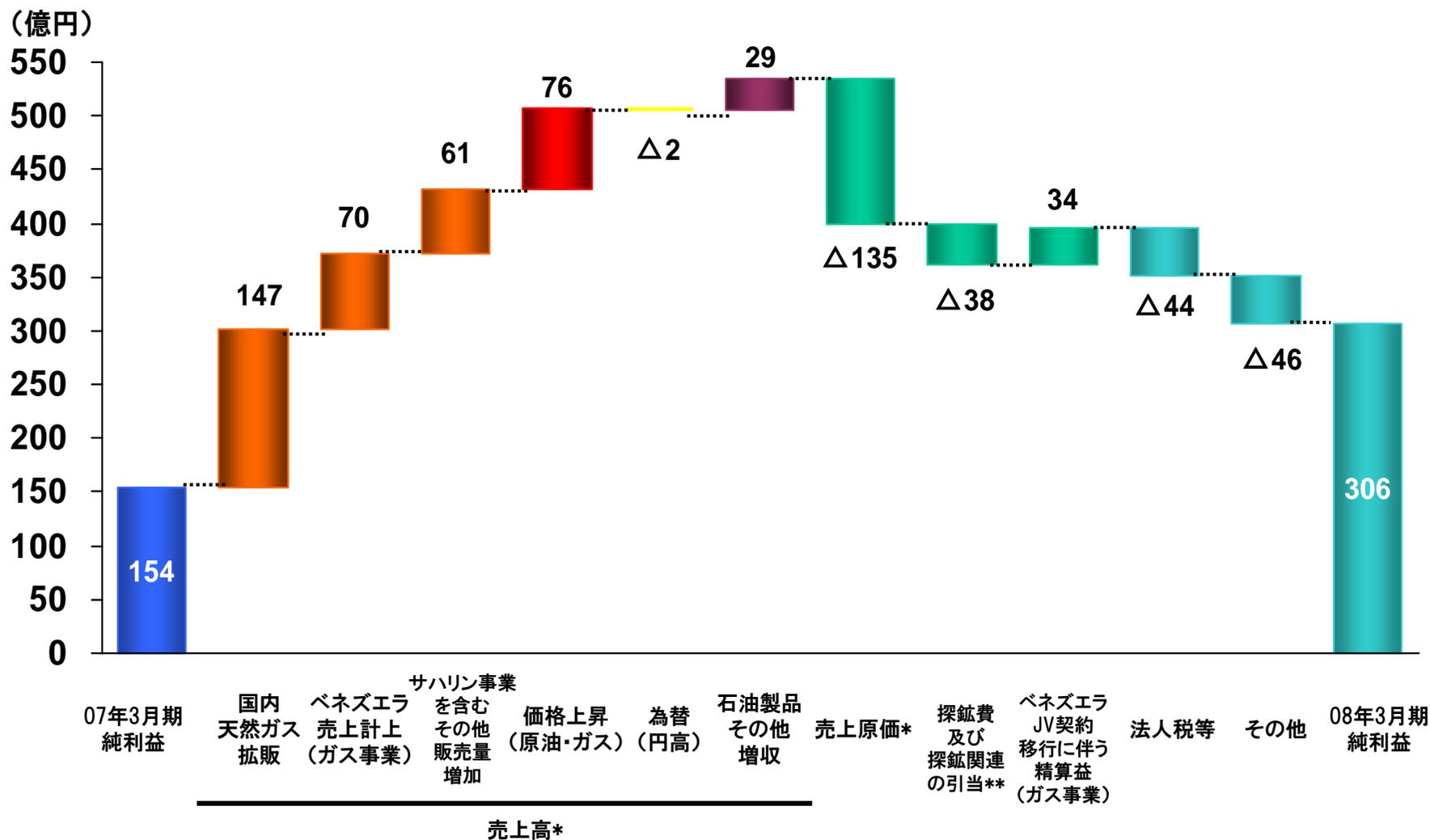
サハリン事業:08年3月期より権益分原油の販売開始  
(仕入れ販売取引のため、ホールディングス連結では純額表示)

## 帝国石油 天然ガス売上高

	07年3月期	08年3月期	増減	増減率
天然ガス売上高(億円) (LPGを含む)	471	693	221	47.1%
海外ガス販売量(百万cf)	172	29,777	29,605	17,219.4%
国内ガス販売量(百万Nm <sup>3</sup> )	1,273	1,657	385	30.2%
海外ガス平均価格(\$/千cf)	6.77	2.14	△4.63	△68.4%
国内ガス平均価格(¥/Nm <sup>3</sup> )	34.96	35.70	0.74	2.1%
海外ガス売上為替(¥/\$)	116.39	117.86	1.47	1.3%

- ・ベネズエラ事業:08年3月期より売上を計上
- ・国内天然ガス事業:大口工業用を中心とした販売量増加、静岡ガス(株)への供給開始

# 帝国石油 純利益 増減要因分析



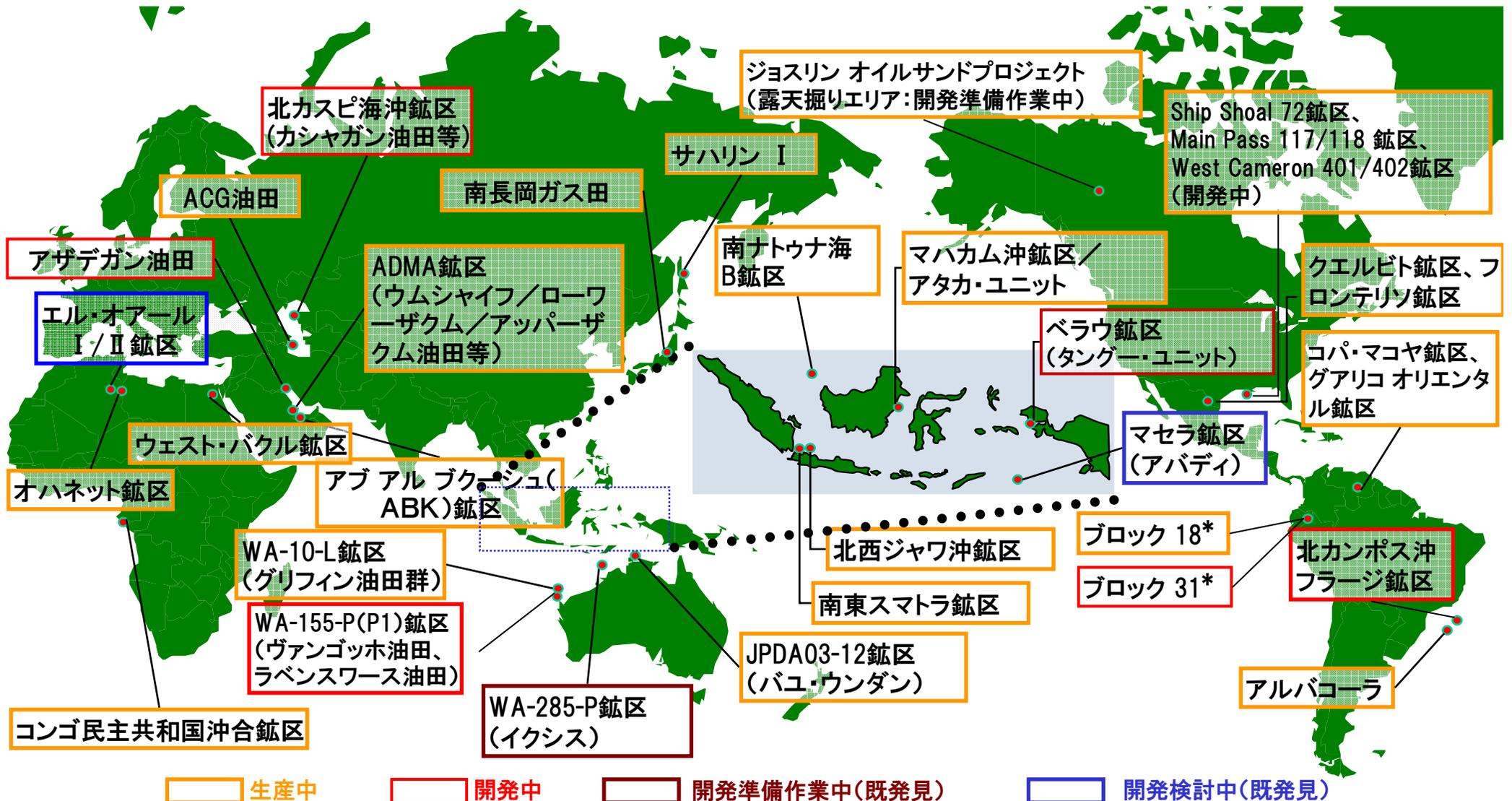
\*仕入販売取引分を含む。ホールディングス連結では売上原価と純額表示。  
 \*\*生産物回収勘定引当金繰入額及び探鉱事業引当金繰入額(484百万円減少)

# 帝国石油 損益計算書

(億円)	07.3期	08.3期	増減	増減率	
売上高	1,148	1,530	381	33.2%	原油売上原価： 129 (増減) +81  天然ガス売上原価： 169 (増減) +49
売上原価	596	731	135	22.7%	
探鉱費	28	62	33	116.7%	北茨城沖等
販売費及び一般管理費	208	254	46	22.3%	
営業利益	315	481	166	52.7%	ベネズエラ(ガスグアリコ)における石油契約発効に伴う過年度分(06.4-12)精算益
営業外収益	47	101	54	114.8%	
営業外費用	66	59	△6	△9.5%	ガスグアリコの売上計上によるPDVSA分
経常利益	296	514	211	69.8%	
特別利益	6	0	△6	△99.5%	
特別損失	-	8	8	-	
法人税等及び法人税等調整額	145	189	44	30.7%	
少数株主利益	3	18	15	427.5%	
純利益	154	306	152	98.4%	

**国際石油開発帝石ホールディングス  
プロジェクト参考データ**

# 主なプロジェクトの地理的位置



\* 権益移転に係る政府承認手続中であり、当該契約は政府承認を得た後、正式に発効する予定であります。

## 生産開始スケジュール

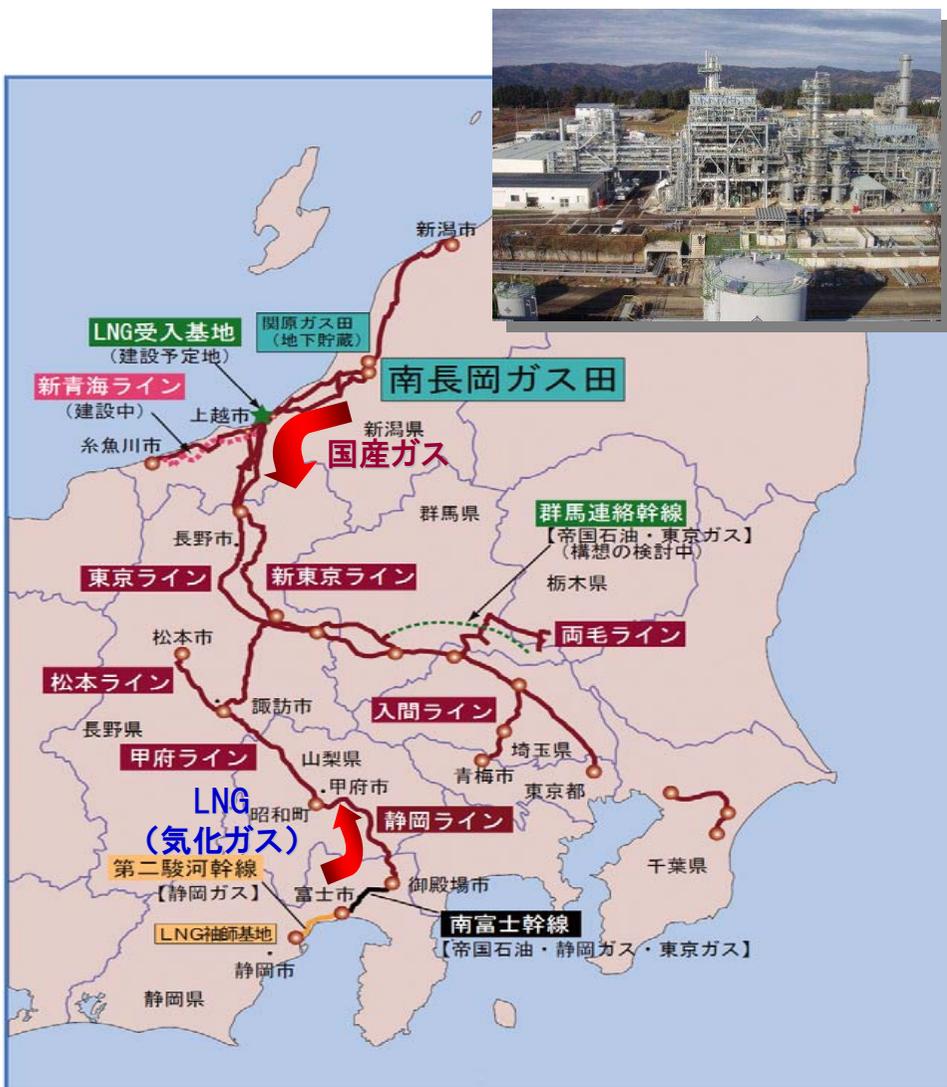
生産開始	プロジェクト・油ガス田	国	オペレーター	ピーク生産量・ 生産キャパシティ	当社シェア*1
08年4月 ～09年3月	フラージ油田 タングーLNGプロジェクト	ブラジル インドネシア	Chevron BP	10万bbl/日 760万ト/年	6.85% 7.79%
09年4月 ～10年3月	ヴァン・ゴッホ油田 ノースブルットガス田	オーストラリア インドネシア	Apache ConocoPhillips	6万bbl/日 - *2	47.499% 35%
10年4月 ～11年3月	ラベンスワース油田	オーストラリア	BHPBP	- *2	28.5%
12年4月 ～13年3月	エルオアールI&II	アルジェリア	ENI	未定	10.29%
13年4月～	ジョスリンオイルサンドプロジェクト(露天掘り) イクシスLNGプロジェクト(LNG) (コンデンセート) (LPG) アバディLNGプロジェクト	カナダ オーストラリア  インドネシア	TOTAL 当社  当社	23万bbl/日 800万ト/超/年 約10万bbl/日 約160万ト/年 未定	10% 76%  100%
既発見・ 生産開始未定	カシャガン油田 クダ・タシ/ジャハール/キタン構造 カイラン/アクトテ/カラムカス/カシャガンサウスウェスト構造	カザフスタン JPDA カザフスタン	ENI ENI ENI	150万bbl/日 未定 未定	8.33% *3 35% 8.33% *3
フェーズ1本格生産 は未定 (初期生産中)	アザデガン油田	イラン	NICO	26万bbl/日	10%

\*1 当社シェアは、鉱区権益比率。ただし、持分法適用関連会社分は、鉱区権益比率に当社出資比率を乗じたもの

\*2 プロジェクトパートナー各社との守秘義務上、公開不可

\*3 2008年1月、カザフスタン政府と基本合意に到達(当社の権益比率は8.33%から7.56%へ)

# 国内天然ガス事業



国内パイプラインネットワーク

## ■ 生産量\*

- 天然ガス: 約4.4百万m<sup>3</sup>/日
- 原油: 約5,000バレル/日

## ■ 天然ガス販売量

- 2007年度は前期比37%増の17億m<sup>3</sup>(帝石単体)

## ■ 南長岡ガス田(1984年生産開始)

- MHF技術により北部開発を促進
- 2006年プラント処理能力増強  
(ガス田全体の処理能力: 約500万m<sup>3</sup>)

## ■ ガス拡販を目的としたパイプラインネットワークの拡充 (総延長約1,400km)

- 新青海ライン(約71km: 約178億円: 2009年完成予定)
- 群馬連絡幹線構想(東京ガス株との共同検討)

## ■ LNGの導入(2010年~)

- 静岡ガス株のLNG気化ガスを導入

## ■ LNG受入基地(上越市)の建設計画

- 当社グループによるLNGバリューチェーン構築も視野に

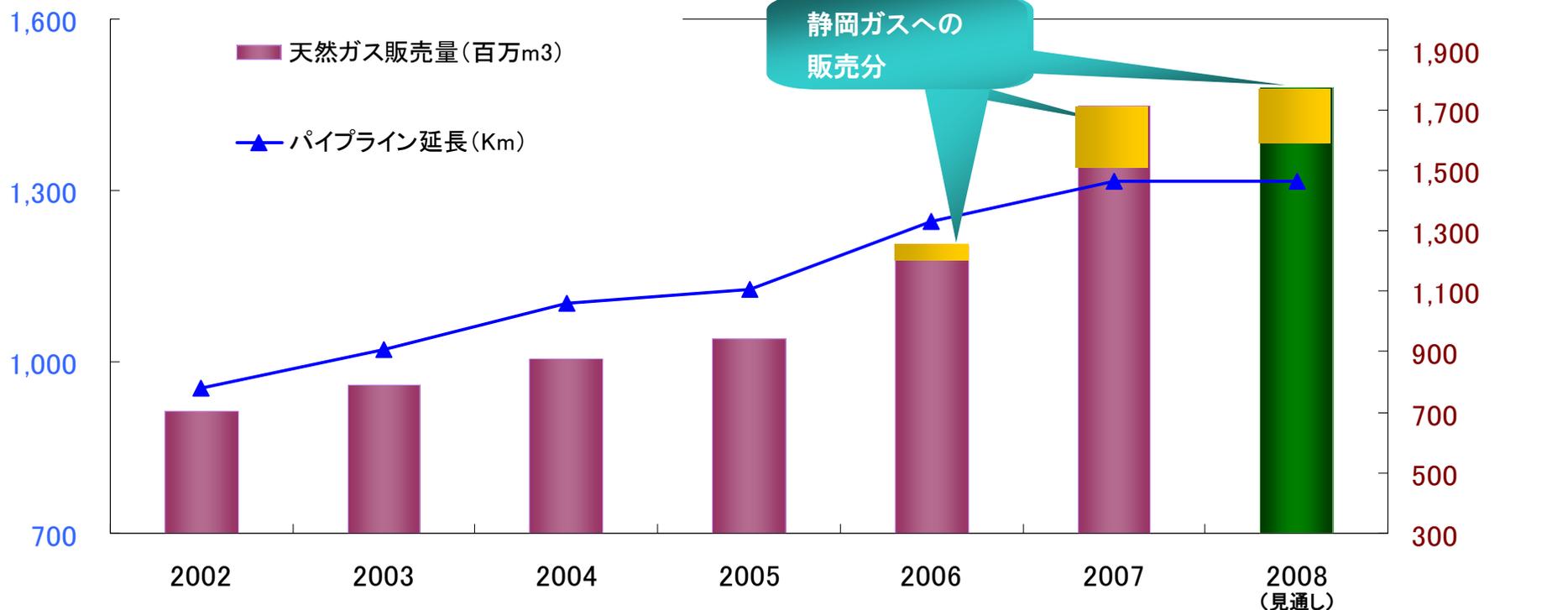
## ■ 発電事業: 約5.5万kw

\* 国内油田・ガス田の合計(2007年度平均日産量)

# 国内天然ガス事業

## 拡販の推移

パイプライン延長 (km)



注: \*2005年までは12月期、2006年以降は翌年3月期の4月～3月ベース、2008年は見通し  
 \*\*1m³当り41.8605MJ(10,000kcal)換算  
 \*\*\*帝国石油単体ベース

■ 2007年度は前期比37%増の17億m³(帝石単体ベース)

- 工業用需要家を中心に天然ガスへの燃料転換が進展
- 静岡ガスへの販売通年化 ⇒ 中長期的には20億m³を超える規模の需要を想定

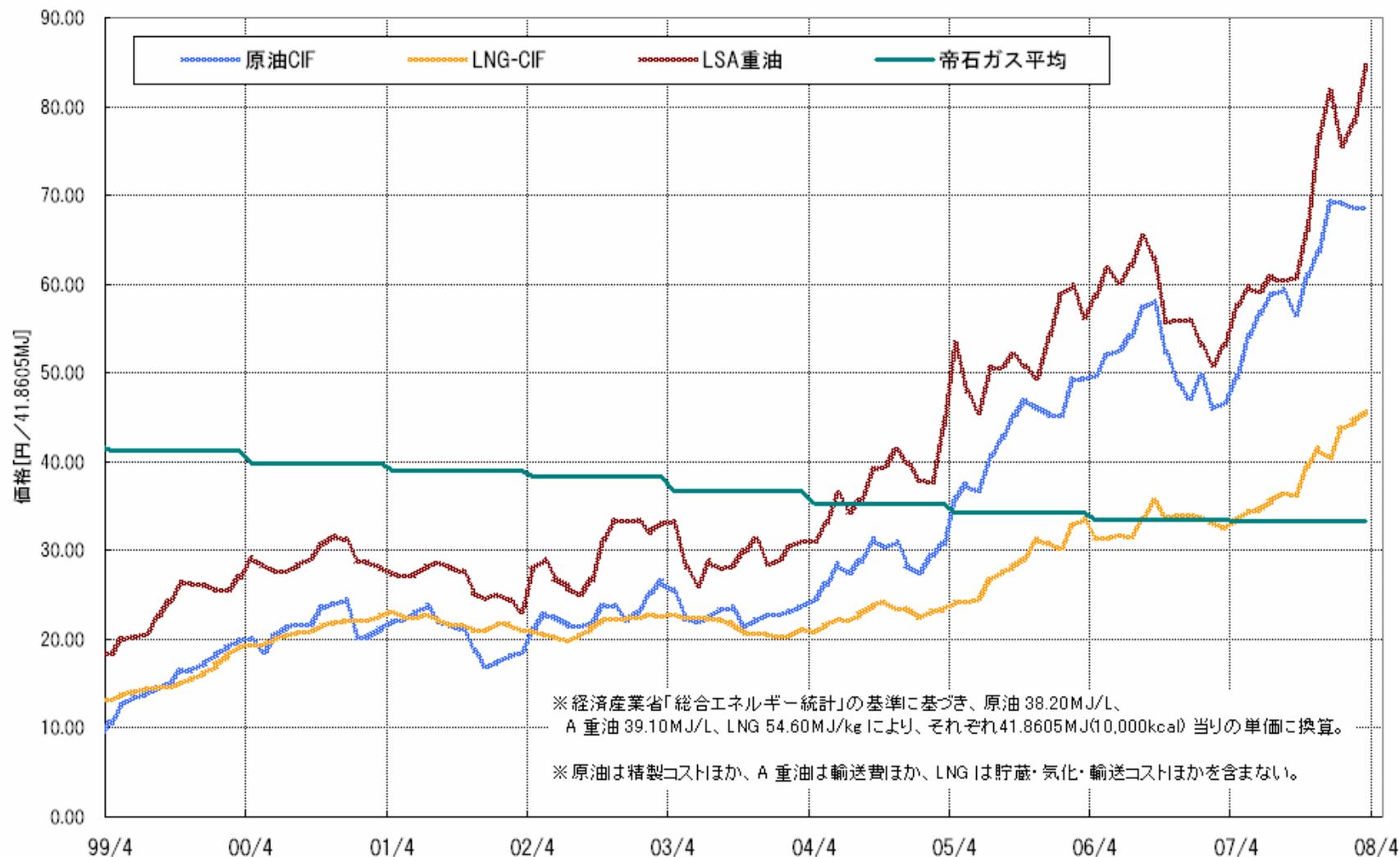
■ LNG導入に向けて(2010年～)

- 拡販ペースに応じた導入
- 導入後の販売価格体系について検討中

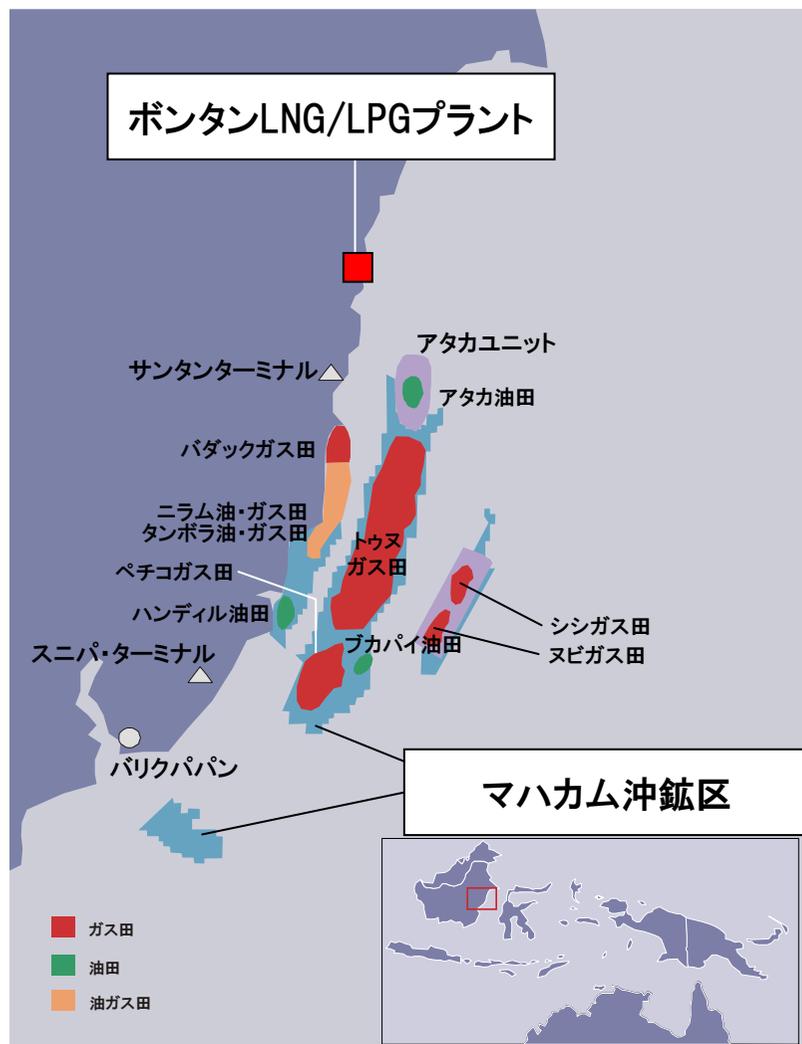
# 国内天然ガス価格

## 価格環境

単位あたりの価格の比較



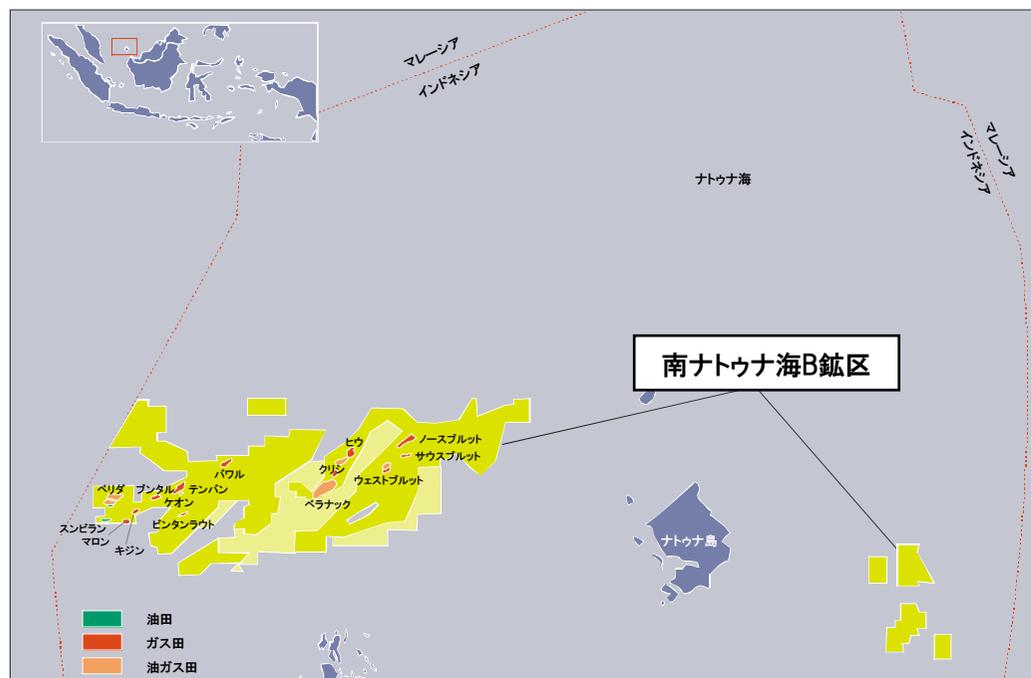
## マハカム沖鉱区 国際石油開発(INPEX)



注: \* 全鉱区ベース、2008年3月平均日産量

- 当社権益比率: 50%  
(オペレーター: TOTAL)
- 生産量\*
  - 原油: 日量約7万3千バレル
  - 天然ガス: 日量約27億立方フィート
- PS契約: 2017年まで
- ボンタンLNG基地へのガス安定供給を目的として開発作業を継続
  - トウヌ/ペチコガス田の段階的開発
  - タンボラ油・ガス田の追加開発
  - シシ/ヌビ ガス田の開発
- 2010年12月、2011年3月に更新を迎えるLNG販売契約の延長

## 南ナトゥナ海B鉱区 ナトゥナ石油



\* 全鉱区ベース、2008年3月平均日産量

- 当社権益比率: 35.0%  
(オペレーター: ConocoPhillips)
- 生産量\*:
  - 原油: 日量約8万5千バレル
  - LPG: 日量約1万1千バレル
  - 天然ガス: 日量約4億7千万立方フィート
- PS契約: 2028年まで
- SembCorp社(シンガポール)と2001年より22年間、Petronas(マレーシア)と2002年より20年間の天然ガス販売契約締結
- 世界有数規模のFPSOで操業を行うベラナック油ガス田では2004年12月より原油・コンデンセートの生産を開始、2007年4月よりLPGの生産を開始。クリシ油ガス田について2007年12月より生産開始
- ノースブルットガス田は2009年生産開始を予定

## ベラウ鉱区(タンゲーLNGプロジェクト) MI Berau B.V./MIベラウジャパン



- MI Berau/MIベラウジャパン\*:  
三菱商事とのJV(当社44%、三菱商事56%)  
\*MIベラウジャパンはケージーベラウ石油開発に約16.5%出資
- 権益比率:  
MI Berau分: ベラウ鉱区 22.9%(タンゲー・ユニット 16.3%)  
ケージーベラウ石油開発分: ベラウ鉱区 12%(タンゲー・ユニット 8.56%)  
(オペレーター:BP)
- PS契約: 2035年まで
- インドネシア政府より、開発計画、生産分与契約の延長についての承認取得
- LNGプロジェクト開発費用として、総額35億米ドルの融資契約を締結済
- 建設中のLNGプラントは2008年後半生産開始予定
  - 年間760万トンのLNGを生産する計画
  - 中国福建省向けLNG長期販売契約を締結
  - 韓国POSCO社及びK-Power社とLNG販売契約を締結
  - 米国Sempra社とLNG販売契約を締結

## マセラ鉱区(アバディ) インペックスマセラアラフラ海石油



- 当社権益比率: 100.0%
- オペレーター: 当社
- PS契約:
  - 探鉱期間10年間(2008年まで)
  - 開発・生産期間20年間(2028年まで)
- 2000年に試掘井アバディ1号にて天然ガスを発見
- 2002年に評価井2坑を掘削、アバディ構造が大規模ガス田であることを確認
- 埋蔵量評価を目的として、2007年5月より4坑の評価井掘削を実施
- 開発計画につきインドネシア政府と協議を開始予定

## バユ・ウンダン サウル石油



\*2 2008年3月平均日産量

### ■ 当社権益比率: 11.27%\*1 (オペレーター: ConocoPhillips)

\*1 バユ・ウンダンユニット共同操業協定の規定に従い、同ユニットを構成するJPDA03-12鉱区と隣接するJPDA03-13鉱区の埋蔵量に基づくユニット権益比率の見直しを行ない、2007年6月29日に、Timor Sea Designated Authority (TSDA)は、当社ユニット権益比率の10.53%から11.27%への変更につき承認

### ■ 生産量\*2

- 原油・コンデンセート: 日量約7万バレル
- 天然ガス: 日量約12億立方フィート
- LPG: 日量約3万9千バレル

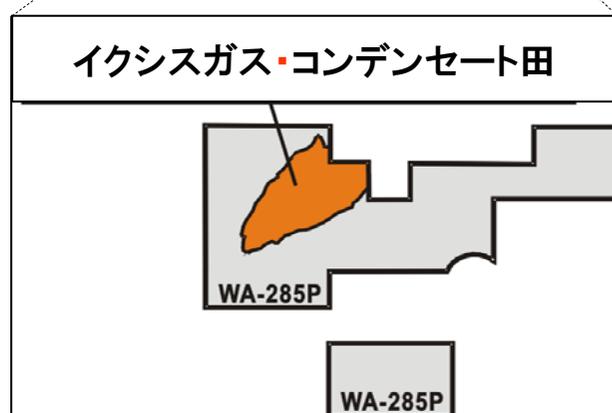
### ■ PS契約: 2022年まで

### ■ コンデンセート及びLPGの開発を目的としたフェーズ1については、2004年2月にコンデンセート/LPG販売開始

### ■ フェーズ2は、オーストラリア北部準州ダーウィンにおけるLNGプロジェクトであり、2006年2月にLNG販売開始

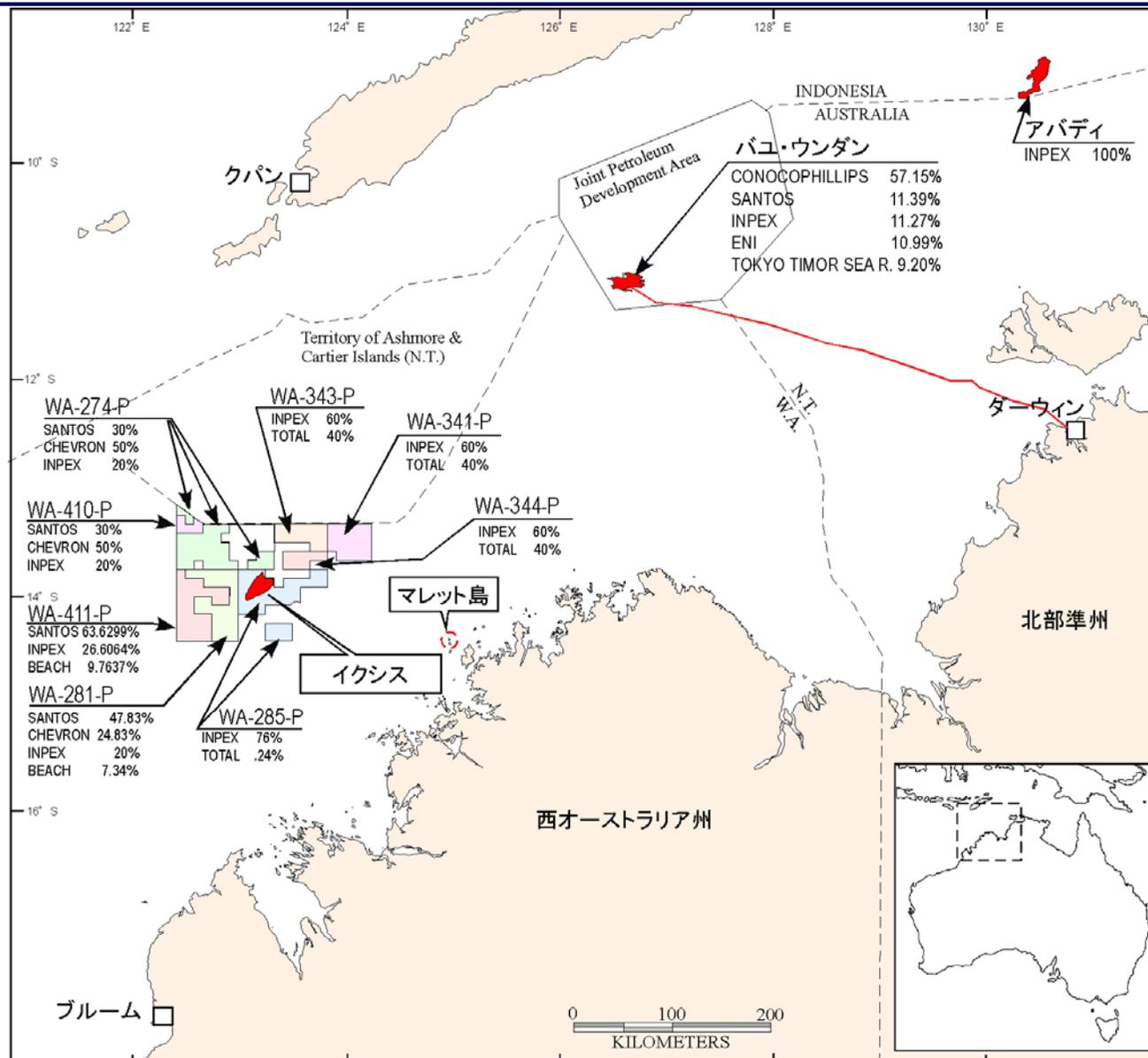
- 2005年8月、東京電力/東京ガスとLNG販売契約締結(2006年から17年間、プラト一時年間300万トン)

## WA-285-P鉦区(イクシス) インペックス西豪州ブラウズ石油

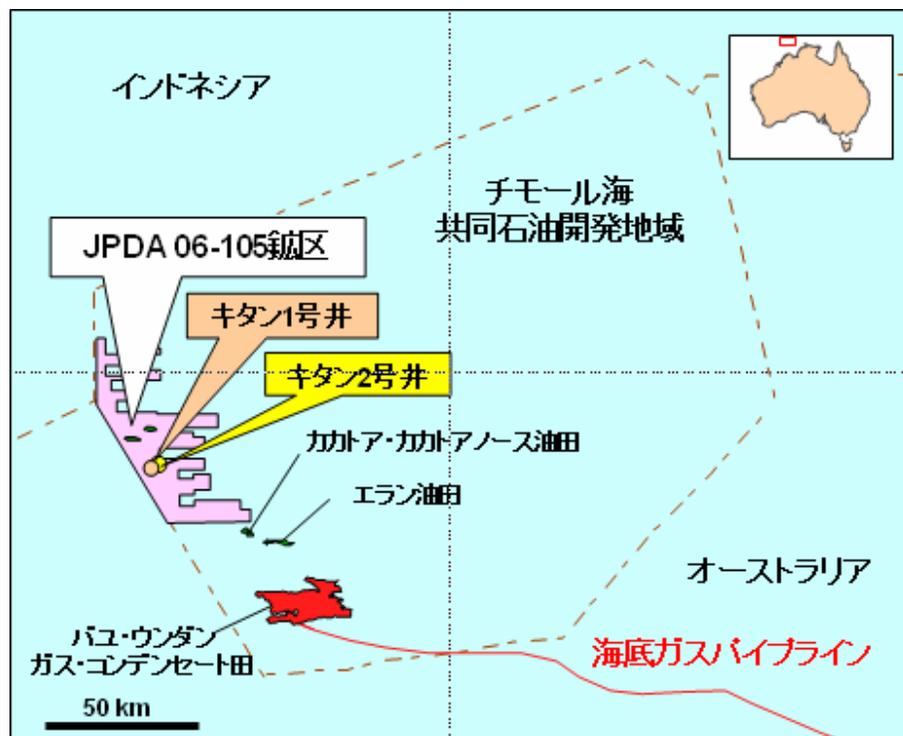


- 当社権益比率: 76.0%
- オペレーター: 当社
- 利権契約:
  - 探鉦期間 2009年9月まで
  - 生産期間 生産ライセンス付与から21年(延長可)
- 2000年より計6坑井を掘削し大規模天然ガス・コンデンセート田を確認、イクシス構造と命名
- 2006年5月、豪州連邦政府及び西豪州政府に対し、プロジェクトの環境影響審査手続きを開始
- 2006年8月、長期にわたり豪州経済発展に貢献するプロジェクトとして、豪州連邦政府が主要促進プロジェクトに認定
- ガス埋蔵量の拡大を目的として、試掘井Dinichthys North-1を2007年4月より、また試掘井Ichthys West-1を2008年4月より掘削
- 陸上LNGプラント建設地を選定中
- 初期段階ではLNGを年間800万トン超、コンデンセートを日量約10万バレル、LPGを年間約160万トン生産予定

# インペックス西豪州ブラウズ石油 保有鉱区位置図

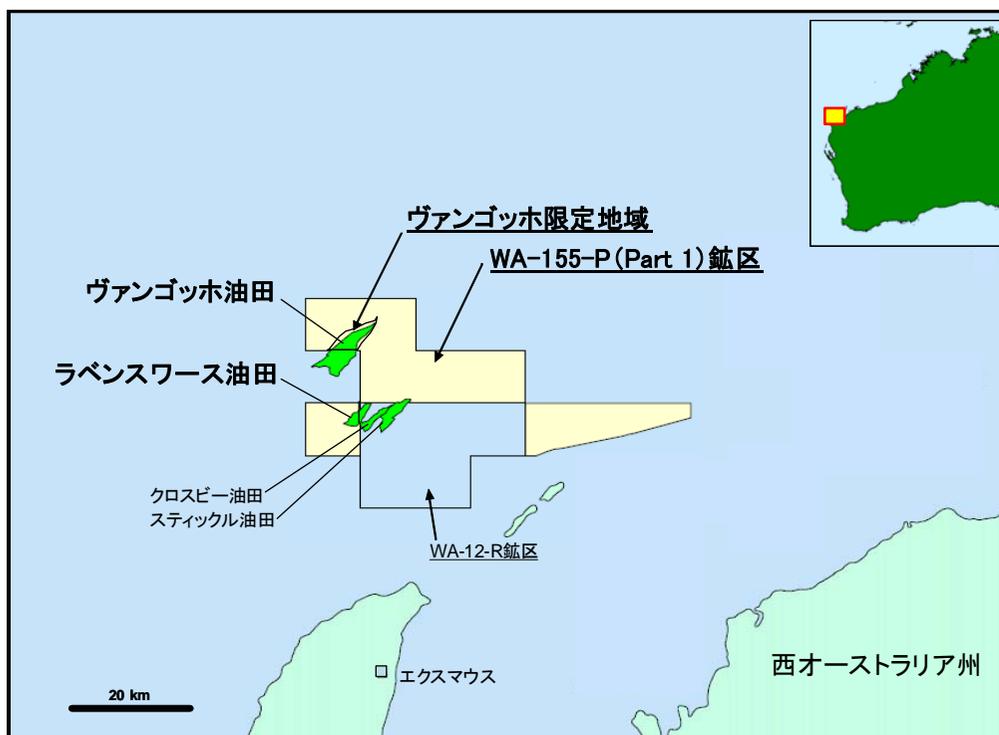


## JPDA06-105鉦区 インペックスチモールシー



- 当社権益比率: 35% (オペレーター: Eni)
- PS契約:  
探鉦期間 2011年まで
- 1994年以降、試掘井6坑井、評価井3坑井、計9坑井を掘削し、うち2008年1月から2月にかけて掘削した試掘井キタン1号井において、6,100バレル/日の原油の産出を確認
- 現在、キタン構造の商業性につき検討中

## WA-155-P(Part1)鉱区(ヴァンゴッホ油田・ラベンスワース油田) アルファ石油



- 当社権益比率:28.5%
- 利権契約:
  - 探鉱期間 2009年2月まで
  - 生産期間 生産ライセンス付与から21年(延長可)

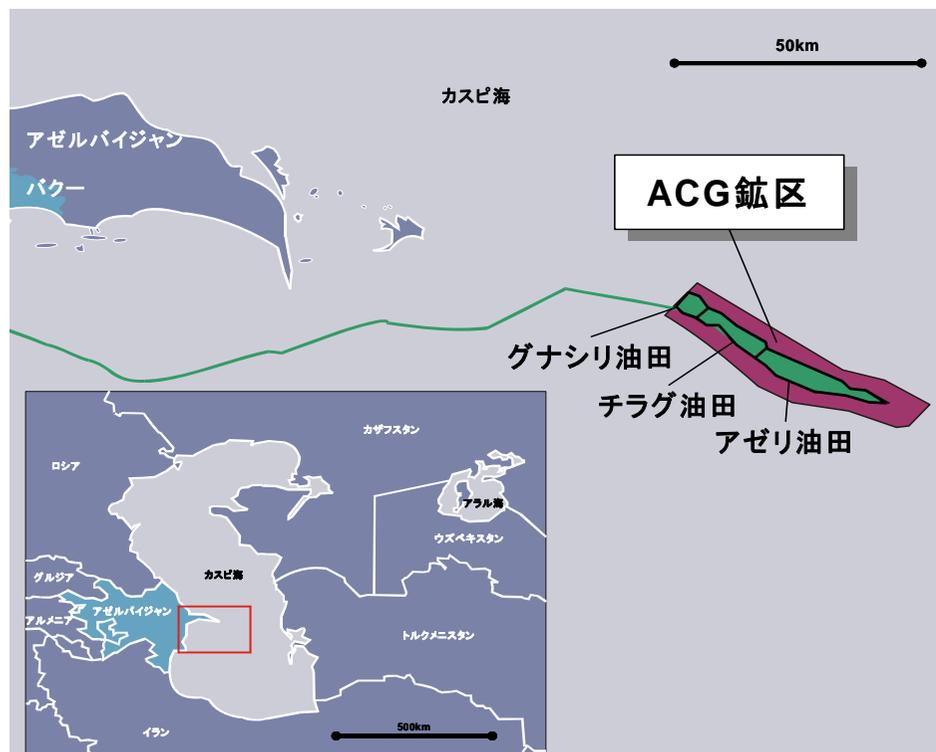
### ラベンスワース油田

- オペレーター:BHPBP
- 2007年11月に開発移行を決定し、開発作業を実施中
- WA-155-P(Part 1)鉱区とその東側に隣接するWA-12-R鉱区に跨って位置するラベンスワース油田は、WA-12-R鉱区のカロスビー油田及びスティックル油田とともに、WA-12-Rが保有するFPSOにタイインする計画であり、生産開始は2010年7月を予定

### ヴァンゴッホ油田(ヴァンゴッホ限定地域)

- オペレーター: Apache(当社権益比率: 47.499%)
- 2007年4月に開発移行を決定し、開発作業を実施中
- 生産開始は2009年4月の予定
- 生産量はピーク時で日産約6万バレルの規模となる予定

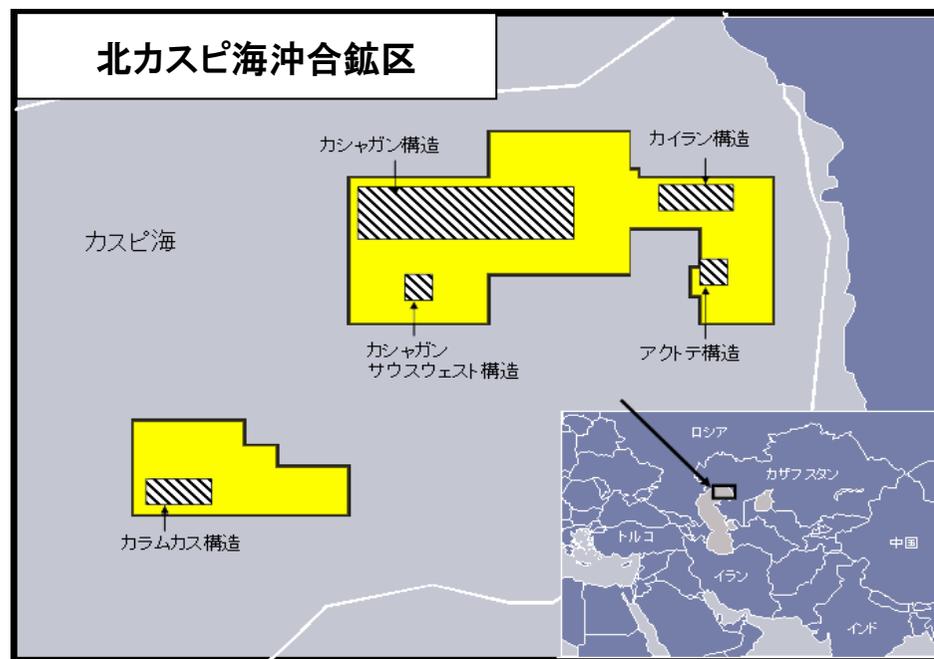
## ACG油田 インペックス南西カスピ海石油



注: \* 全鉱区ベース、2008年3月平均日産量

- 当社権益比率: 10.0%(オペレーター:BP)
- 生産量\*: 日量約77万バレル
- PS契約: 2024年まで
- チラグ油田は1997年に生産開始
- フェーズ1: アゼリ油田中央部は2005年2月に生産開始
- フェーズ2: アゼリ油田西部は2005年12月に生産開始、アゼリ油田東部は2006年10月に生産開始
- フェーズ3: グナシリ油田深海部は2008年4月に生産開始
- 2009年に日量100万バレル達成予定

## カシャガン油田他 インペックス北カスピ海石油



- 当社権益比率: 8.33%(オペレーター:Eni)
- 今年1月、カザフスタン政府と基本合意に到達\*
  - 開発操業体制を整備、強化
  - カザフ国営石油会社を除くパートナーがプロラタで権益を譲渡し、同社の参加比率を他のメジャーシェアホルダーレベルに引き上げる(当社の権益比率は8.33%から7.56%へ)
  - 生産分与契約の財務条件を一部変更
- PS契約: 2021年末まで\*\*
- 2000年6月カシャガンにおいて原油発見
- カシャガン油田以外にもカラムカス/アクトテ/カイラン/南西カシャガンの4構造にて炭化水素の存在を確認
- 現在作業中の第一段階(Experimental Program)に続き、Full Field Development Programを予定
- ピーク生産量は日量150万バレル(当初計画の25%増)に到達予定

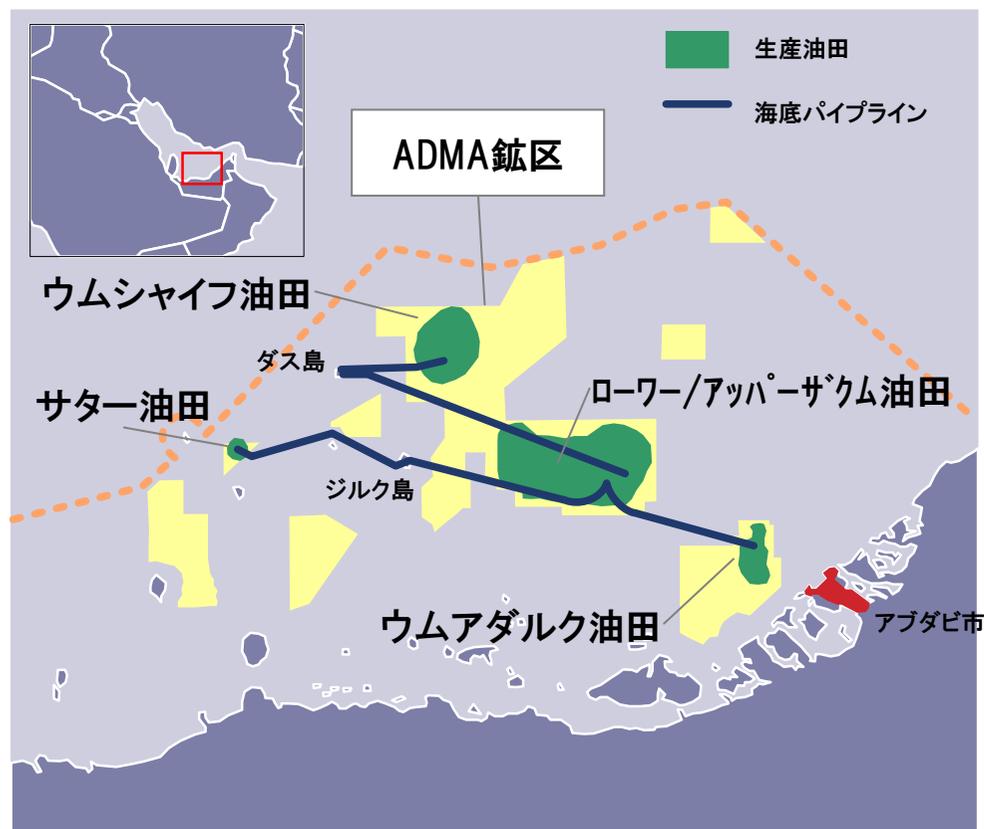
注: \* 本年5月末までに詳細な条件について合意するよう協議中  
 \*\*20年間の延長オプション有り

## BTC(BakuTbilisiCeyhan)パイプラインプロジェクト INPEX BTC Pipeline, Ltd.



- 当社権益比率:2.5%(オペレーター:BP)
- 2002年10月に操業会社BTC Co.の発行済み株式をINPEX BTC Pipeline, Ltd.が取得
- 2004年2月、パイプライン建設の資金調達を目的とするプロジェクトファイナンス契約調印
- 2006年6月、ジェイハンターミナルから原油出荷開始
- 2007年第3四半期、輸送能力日量100万バレルの設備のコミッショニングを完了
- 2008年3月、累計3億バレル出荷
- 輸送能力120万バレルまでの拡張工事を実施中(2008年末、完了予定)

## ADMA鉦区 ジャパン石油開発



- ウムシャイフ/ローワーザクム
    - 当社権益比率: 12.0%(オペレーター: ADMA-OPCO\*)
  - アッパーザクム/ウムアダルク/サター
    - 当社権益比率:  
アッパーザクム/ウムアダルク 12.0%  
サター 40.0%(オペレーター: ZADCO\*)
- \*アブダビ国営石油会社とJODCOなどで設立した操業会社。JODCOから両社へそれぞれ12%を出資。
- 利権契約: 2018年まで(ただしアッパーザクム油田の権益期限は2026年)
  - 生産量維持・拡大のため開発作業を継続中
    - 全油田で水圧入を実施
    - ウムシャイフ/ローワーザクムでガス圧入を実施

## アザデガン油田 アザデガン石油開発

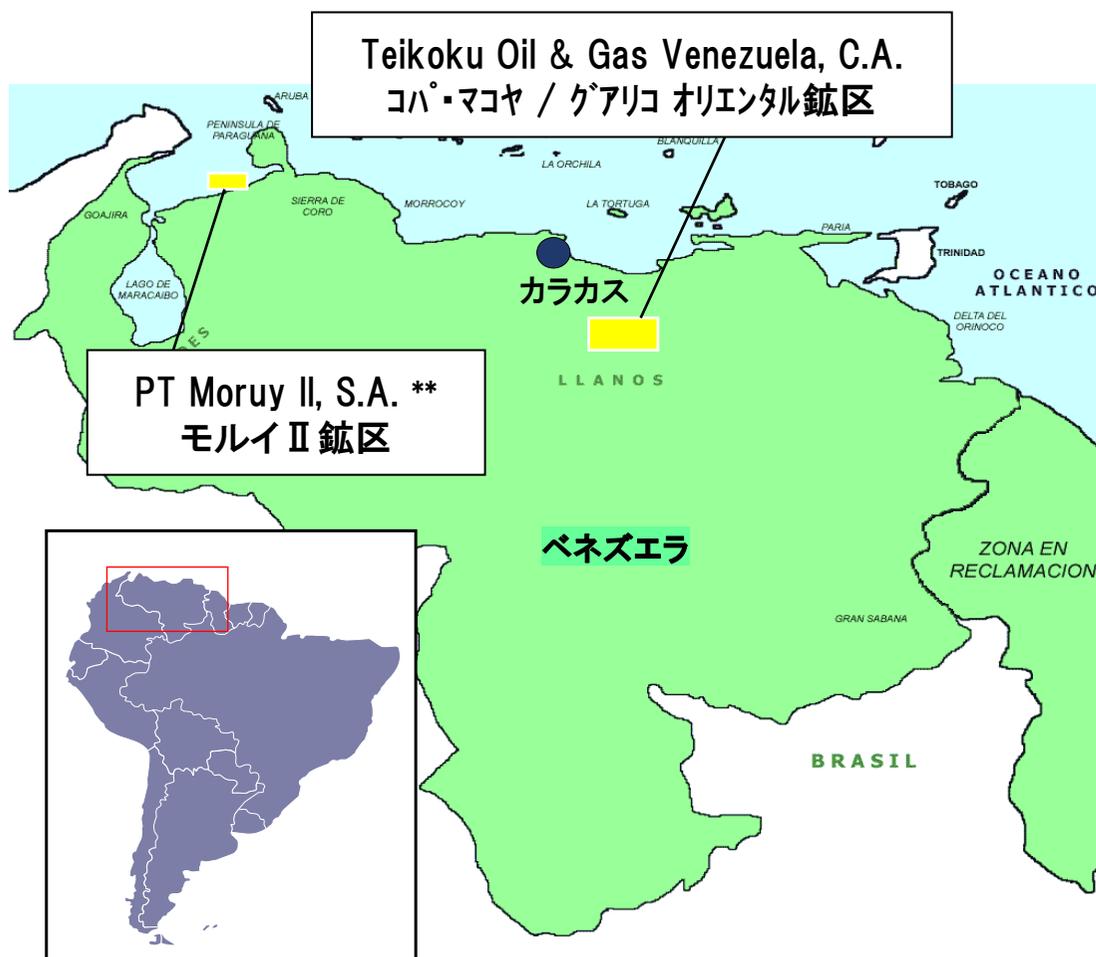


- 当社権益比率:10%  
(イラン側と協議を継続中)
- サービス契約(バイバック契約)
- 油田開発プロジェクトは2段階\*
  - 開発第1段階として2012年に日量15万バレルに達する計画
  - 開発第2段階へ移行した場合、2015年以降に日量26万バレルの生産に達する見込み

注:\*全鉱区ベース、生産量達成時期は2008年後半に開発工事が開始されるとの前提。

# ベネズエラ プロジェクト

Teikoku Oil & Gas Venezuela, C.A.ほか



## コパ・マコヤ / グアリコ オリエンタル 鉱区

- ガス・原油探鉱・開発・生産事業
- ジョイントベンチャー契約
  - 2006-2026年
- ジョイントベンチャー出資比率
  - ガス事業:70%、原油事業:30%
- 生産量\*
  - ガス: 日量約74百万立方フィート
  - 原油: 日量約2千バレル

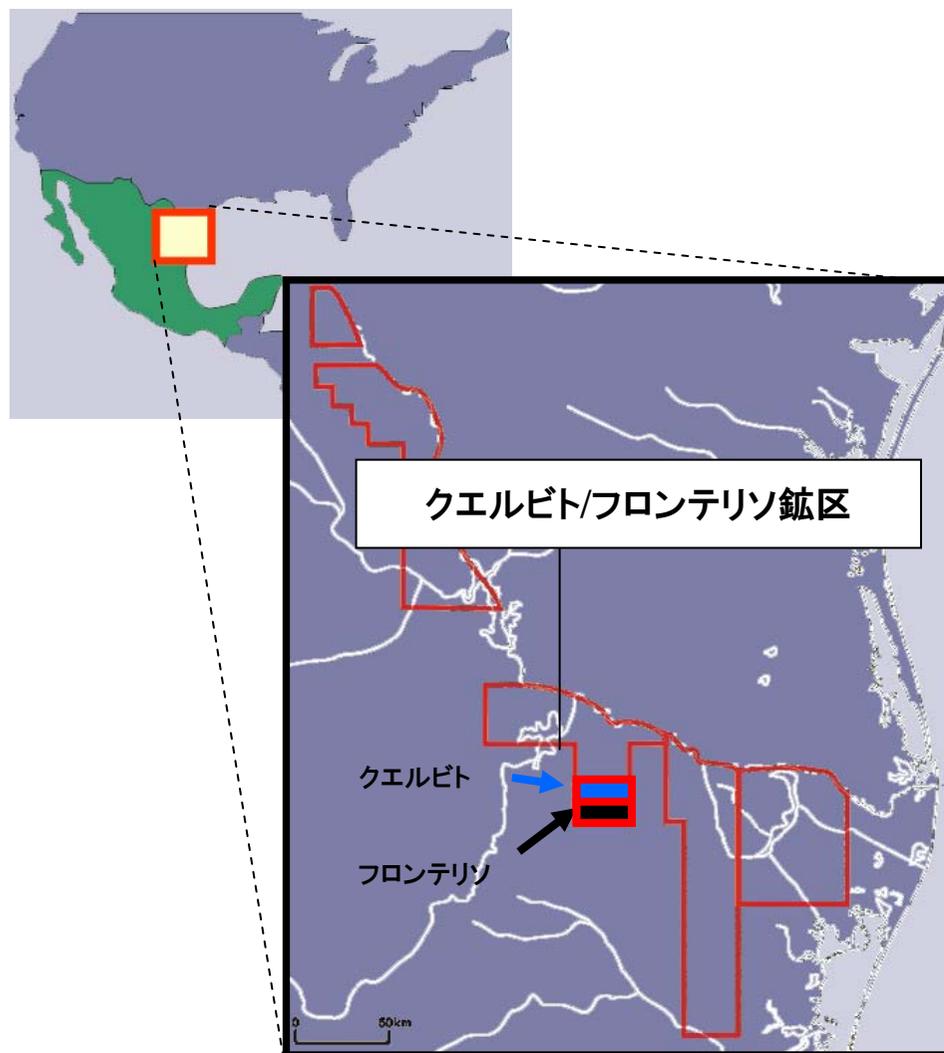
## モルイ II 鉱区

- ガス探鉱事業
- 権益比率:50%(オペレーター:ペトロブラス)
- 地質解釈作業実施中

\* 全鉱区ベース2008年3月平均日産量

\*\* ペトロブラスと当社50:50の共同出資によるJV

## クエルビト / フロンテリソ鉱区 テイコク・オイル・デ・ブルゴス\*



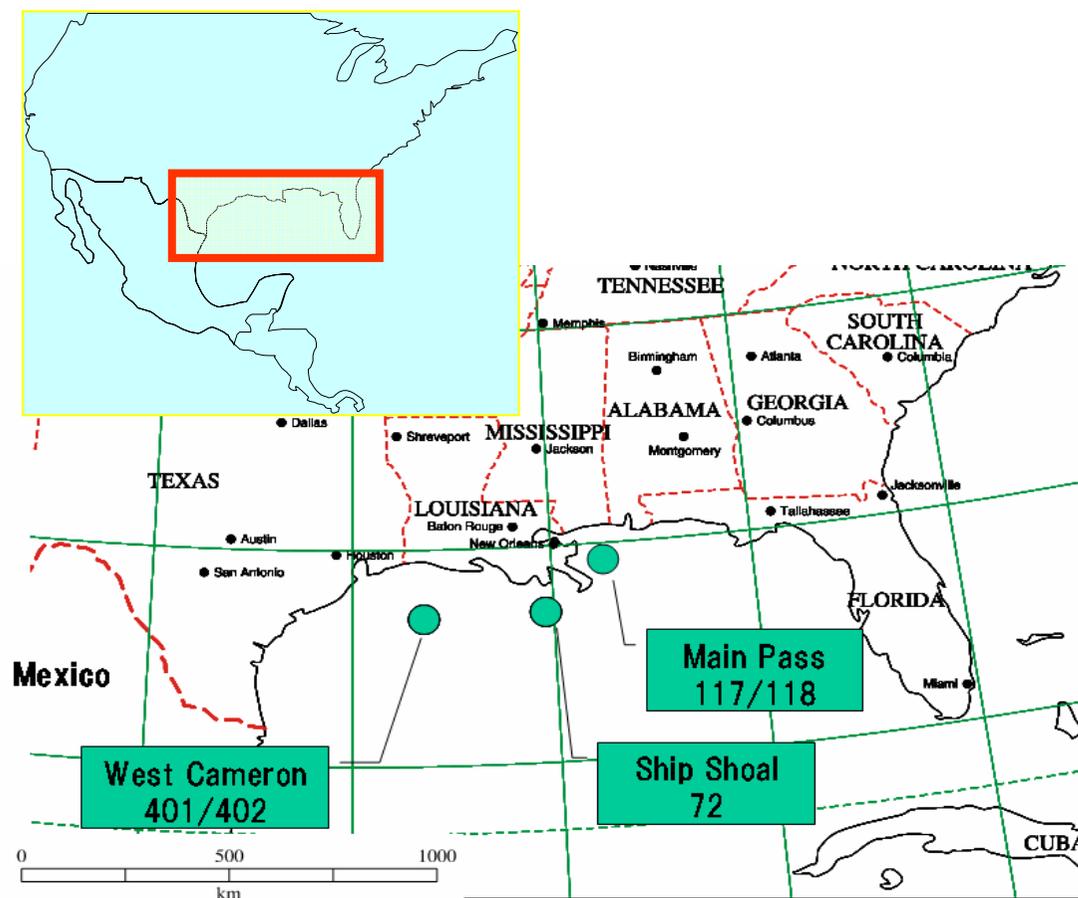
### クエルビト / フロンテリソ鉱区

- ガス開発事業
- サービス契約
- 権益比率:40%  
(オペレーター:ペトロブラス)
- 生産量\*\* :
  - ガス:日量約31百万立方フィート
  - 原油:日量約5百バレル

\* 当社株主シェア75%

\*\* 全鉱区ベース2008年3月平均日産量

# 米国メキシコ湾 プロジェクト Teikoku Oil (North America) Co., Ltd.



- 原油・ガス探鉱・開発事業
- コンセッション契約
- 権益比率
  - Ship Shoal 72 : 25%
  - West Cameron 401/402 : 25%
  - Main Pass 117/118 : 10%
- 生産量\*
  - ガス: 日量約24百万立方フィート
  - 原油: 日量約6百バレル

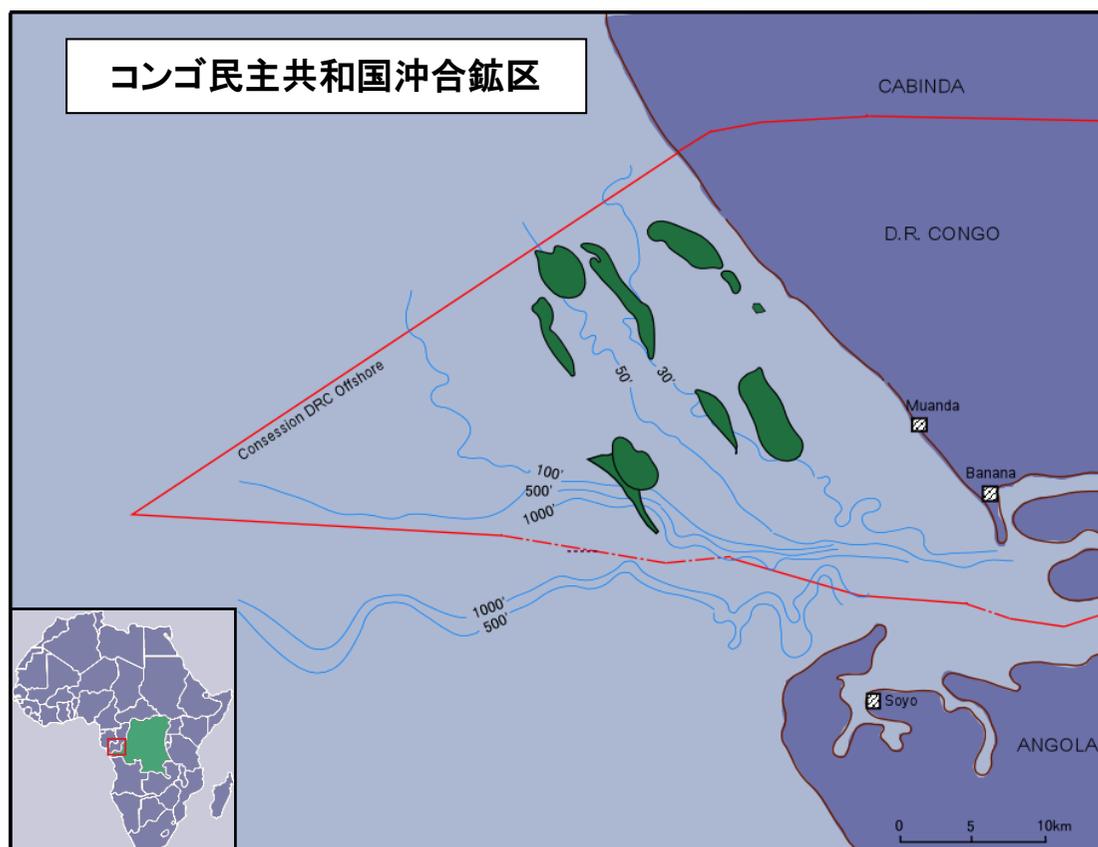
\* 全鉱区ベース2008年3月平均日産量

# コンゴ民主共和国沖合鉱区 帝石コンゴ石油

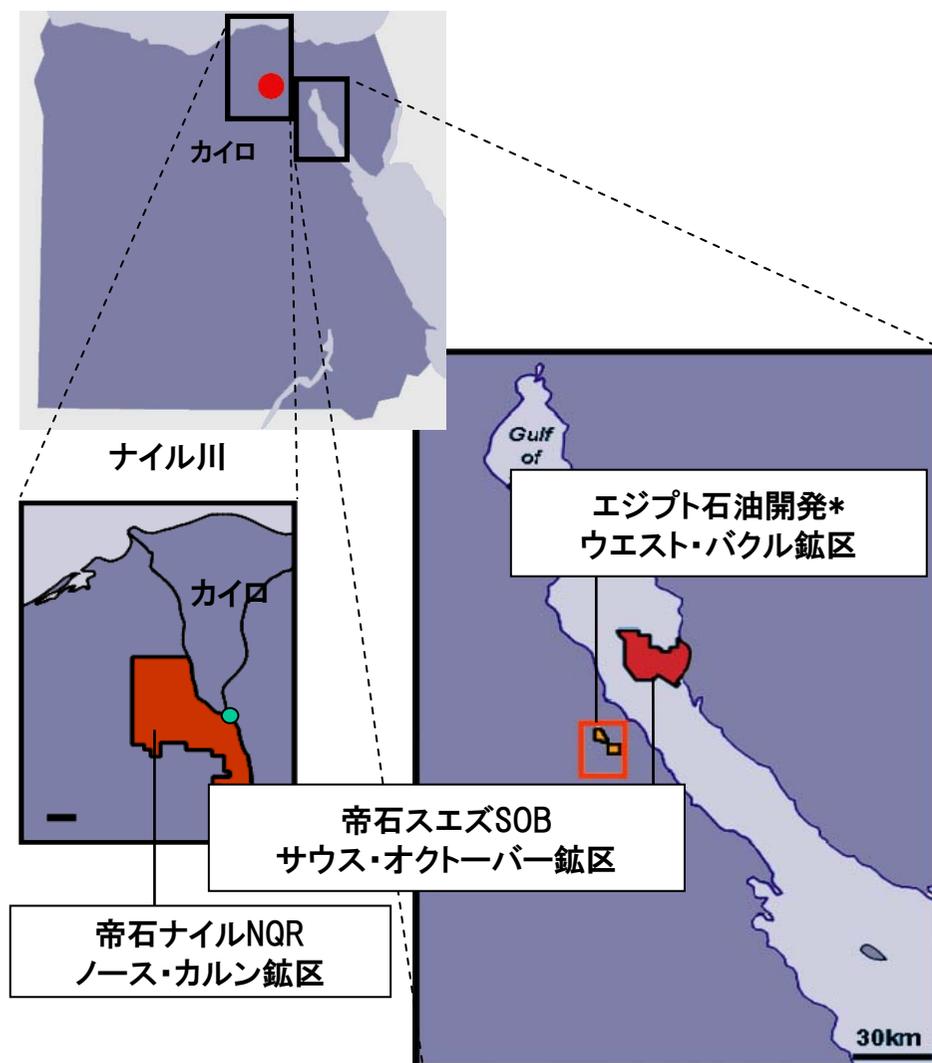
## コンゴ民主共和国沖合鉱区

- 原油探鉱・開発事業
- コンセッション契約(1969-2023年)
- 権益比率:32.28%  
(オペレーター:ペレンコ)
- 生産開始:1975年
- 生産量\*: 日量約1万3千バレル

\*全鉱区ベース2008年3月平均日産量



## エジプト プロジェクト エジプト石油開発\*ほか



### ウエスト・バクル鉱区

- 原油・ガス探鉱・開発事業
- PS契約(1975-2020年+5年延長オプション)
- 権益比率:100%(オペレーター)
- 生産開始:1980年
- 生産量\*\*: 日量約4千バレル

### サウス・オクトーバー鉱区

- 原油・ガス探鉱事業
- 権益比率:35%(オペレーター:Dana Petroleum)
- 地質解釈作業実施中

### ノース・カルン鉱区

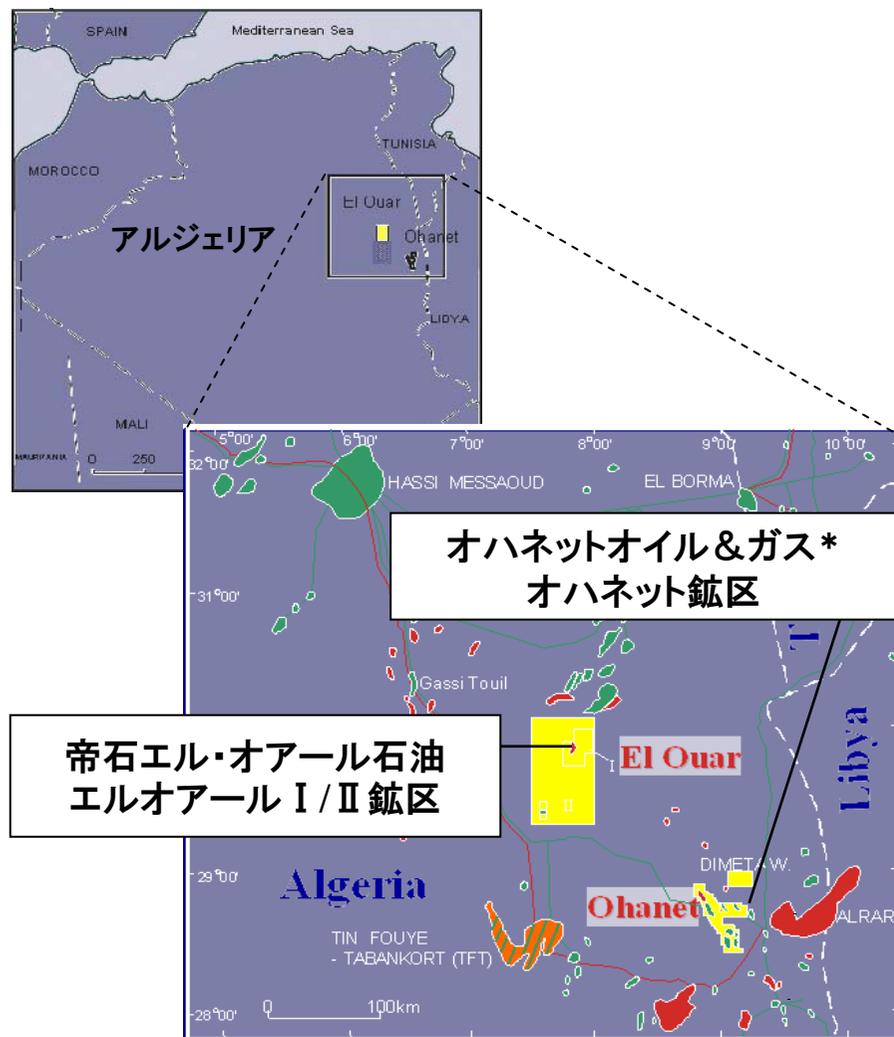
- 原油・ガス探鉱事業
- 権益比率:25%(オペレーター:Dana Petroleum)
- 3D地震探鉱準備作業中

\* 当社株主シェア52.7%

\*\* 全鉱区ベース2008年3月平均日産量

# アルジェリア プロジェクト

オハネットオイルアンドガス\*(オハネット鉱区)  
帝石エル・オアール石油(エル・オアール I / II 鉱区)



## オハネット鉱区

- ガス開発事業
- リスクサービス契約(2000-2011年)
- 権益比率:30%(オペレーター:BHPB)
- 生産開始:2003年10月
- 生産量\*\*
  - ドライガス: 日量約569百万立方フィート
  - コンデンセート: 日量約2万4千バレル
  - LPG: 日量約2万2千バレル

## エル・オアール I / II 鉱区

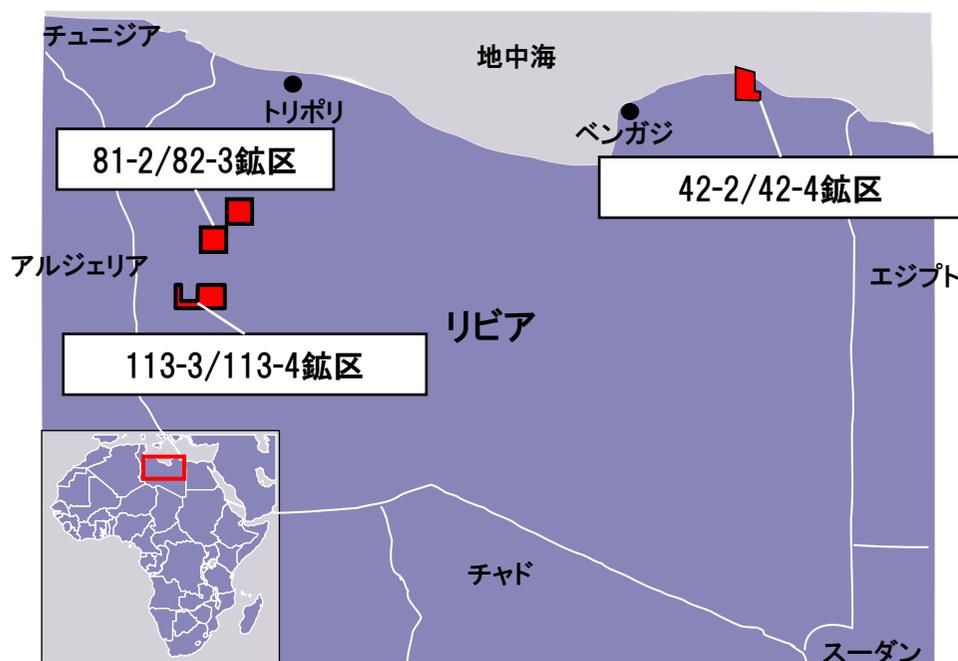
- 原油・ガス探鉱・開発事業
- コンセッション契約
- 原油およびガス・コンデンセート田の開発準備作業中
- 権益比率:10.29%(オペレーター:ENI)

\* 当社株主シェア15%

\*\* 全鉱区ベース2008年3月平均日産量

## リビアプロジェクト

Teikoku Oil Libya UK Ltd  
インペックスリビア石油



- 原油・ガス探鉱事業

- PS契約(探鉱契約5年間)

- 権益比率

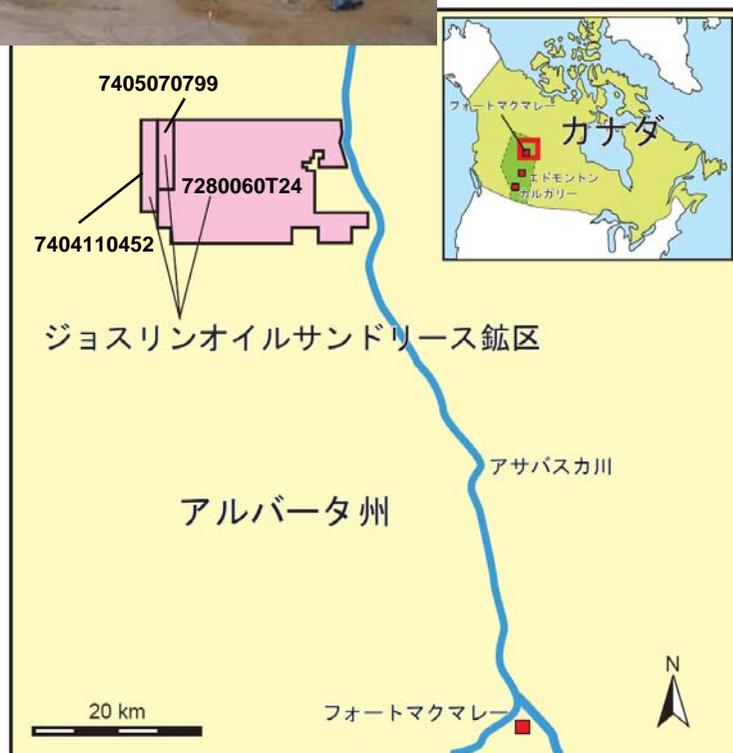
- 81-2鉱区、82-3鉱区:73%(オペレーター)
- 42-2&4鉱区:40%(オペレーター:TOTAL)
- 113-3&4鉱区:85%(オペレーター)

- 作業現況

- 81-2鉱区、82-3鉱区:試掘作業中
- 42-2&4鉱区:2D地震探鉱作業中
- 113-3&4鉱区:2D地震探鉱準備作業中

# ジョスリン オイルサンドプロジェクト

インペックスカナダ石油

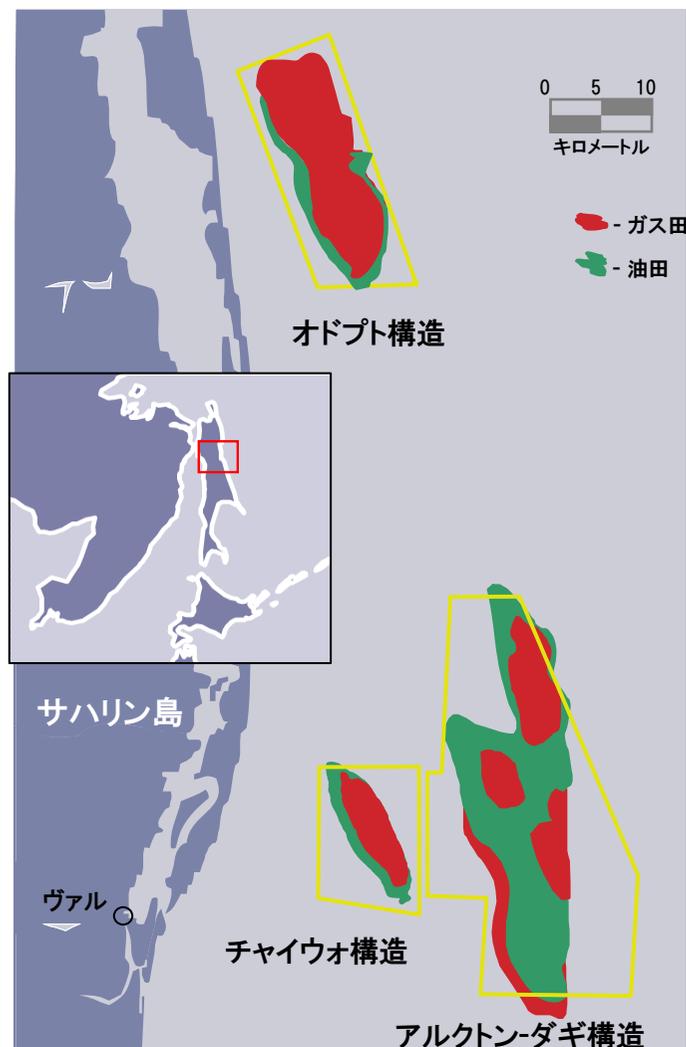


ジョスリンオイルサンドリース鉱区 位置図

- 当社権益比率：10%（オペレーター：TOTAL）
  - リース契約（3鉱区の合計約220km<sup>2</sup>）
    - 7280060T24：無期限
    - 7404110452：2004年11月より15年間のprimary lease\*
    - 7405070799：2005年7月より15年間のprimary lease\*
- \*延長可能
- オイルサンド上流開発プロジェクト：
    - 2006年からスチーム圧入（SAGD法）による生産を開始、2009年までに日量1万バレルに達する予定
    - 露天掘りによる大規模開発を通じ、2010年代初頭に日量10万バレルの生産を計画（第一段階）、その後日量23万バレルまで拡大予定（第二段階）
  - オイルサンド改質プロジェクト：
    - アルバータ州エドモントンにオイルサンド改質プラントを建設し、2010年代前半までに第一段階として日量13万バレルの合成原油を製造することを計画

## サハリン I

## サハリン石油ガス開発



\*2008年3月平均日産量

- サハリン石油ガス開発(SODECO):  
当社グループが5.75%の株式を保有
- (石油公団が保有していた50%の株式は経済産業大臣が承継し、当社は諸条件が整えば、最大33%まで取得する方向で調整中)
- SODECOの権益比率: 30.0%
- 生産量\*
  - 原油・コンデンセート 日量約22万バレル
  - ガス 日量約840百万cf/d
- オペレーター: ExxonMobil
- パートナー: ONGCヴィデッシュ、サハリンモルネフテガス・シェルフ、RNアストラ
- PS契約: 2001年12月、プロジェクトの「商業性宣言」がロシア政府より承認され、20年間の開発期間に移行
- 2005年10月生産開始、2006年10月原油輸出開始
- 天然ガスをロシア国内に供給。さらに中国等へ輸出を検討中

## 東シナ海

## 帝国石油



- 1969年：試掘権を出願
- 1981・84年：地震探鉱を実施
- 1992年：中国側が平湖油・ガス田を発見、1998年生産を開始
- 1997～1999年：石油公団が地震探鉱を実施
- 2004～2005年：石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)が地震探鉱を実施
- 2005年4月：経済産業省が試掘権設定のための処理手続きを開始、これを受け、九州経済産業局に対して、当社出願42,000km<sup>2</sup>のうち3エリア(約400km<sup>2</sup>)の試掘権設定の願いを提出
- 2005年7月：同3エリアの試掘権が付与され、8月に鉱業権設定が完了
- 今後の作業開始にあたっては、作業の安全確保を最優先に、日中政府間協議の動向を見守ると共に、関係官庁等と協議した上で判断

## グループ主要出資先会社

会社名	鉱区名又はプロジェクト名	国名	出資比率	ステージ
<b>日本</b>				
帝国石油	南長岡ガス田ほか*	日本	100%	生産中
<b>アジア/オセアニア</b>				
国際石油開発(INPEX)	マハカム沖鉱区	インドネシア	100%	生産中
ナトゥナ石油	南ナトゥナ海B鉱区	インドネシア	100%	生産中
MI Berau B.V.	ベラウ鉱区(タングー-LNG)	インドネシア	44%	開発中
インベックスマセラアラフラ海石油	マセラ鉱区(アバディ)*	インドネシア	55.37%	開発検討中
サウル石油	バユ・ウンダン	チモール海共同開発地域	100%	生産中
インベックス西豪州ブラウズ石油	WA-285-P鉱区(イクシス)*	オーストラリア	100%	開発準備作業中
<b>中東</b>				
ジャパン石油開発	ADMA鉱区(アッパ-サクム油田等)	アラブ首長国連邦	100%	生産中
アザデガン石油開発	アザデガン油田	イラン	100%	開発中
<b>NIS諸国</b>				
インベックス南西カスピ海石油	ACG油田	アゼルバイジャン	51%	生産中
インベックス北カスピ海石油	カシャガン油田	カザフスタン	45%	開発中
<b>米州</b>				
テイコク・オイル・アンド・ガス・ベネズエラ	コパマコヤ*/グアリコオリエンタル	ベネズエラ	100%	生産中
テイコク・オイル・エクアドル	B18**/B31鉱区**	エクアドル	100%	生産中(B31:開発中)
テイコク・オイル・デ・ブルゴス	クエルビト/フロンテリソ鉱区	メキシコ	75%	生産中
テイコク・オイル(ノース・アメリカ)	Ship Shoal 72, West Cameron 401/402, Main Pass 117/118	米国	100%	生産中
<b>アフリカ</b>				
帝石コンゴ石油	コンゴ民主共和国沖合鉱区	コンゴ民主共和国	100%	生産中
エジプト石油開発	ウエスト・パクル鉱区*	エジプト	52.7%	生産中
オハネットオイルアンドガス	オハネット鉱区	アルジェリア	15%	生産中
帝石エル・オアール石油	エル・オアール I / II 鉱区	アルジェリア	100%	開発検討中

注: \*オペレータープロジェクト

\*\*権益移転に係る政府承認手続中であり、当該契約は政府承認を得た後、正式に発効する予定であります。

## 主な石油契約の概要①

鉱区	国・地域	石油契約
マハカム沖／アタカユニット	インドネシア	PS契約
南ナトゥナ海B	インドネシア	PS契約
ベラウ(タンゲー)	インドネシア	PS契約
マセラ(アバディ)	インドネシア	PS契約
JPDA03-12(バユ・ウンダン)	チモール海共同石油開発地域	PS契約
WA-10-L(グリフィン油田群)	オーストラリア	コンセッション契約
WA-285-P(イクシス)	オーストラリア	コンセッション契約
北カスピ海沖合(カシャガン他)	カザフスタン	PS契約
ACG油田	アゼルバイジャン	PS契約
ウムシャイフ／ローワーザクム／ アッパーザクム油田等	アラブ首長国連邦	コンセッション契約
アザデガン油田	イラン	サービス契約

## 主な石油契約の概要②

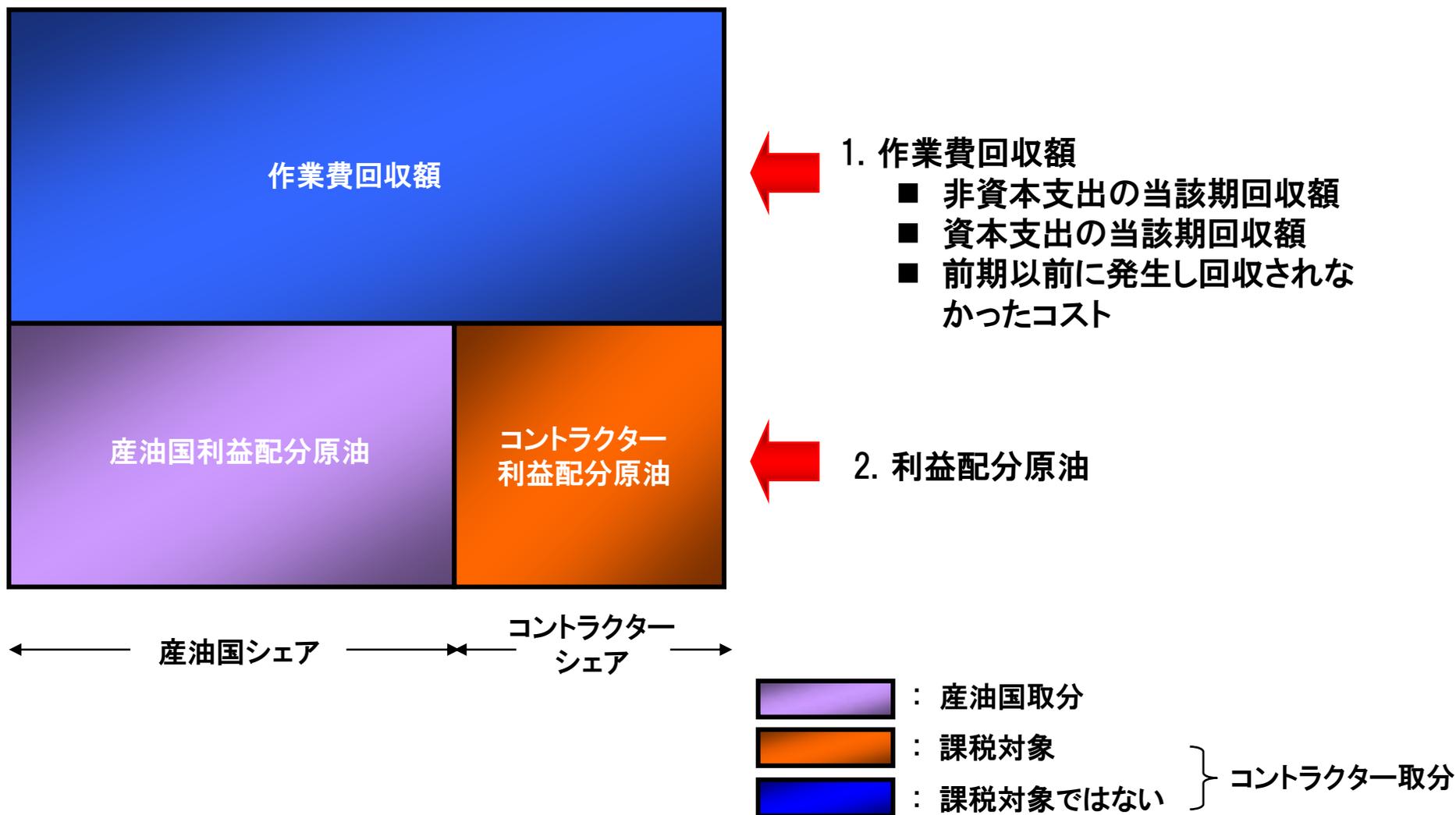
鉱区	国・地域	石油契約
コパ・マコヤ / グアリコ オリエンタル	ベネズエラ	コンセッション契約 (ジョイントベンチャー契約)
B18* / B31*	エクアドル	コンセッション契約
クエルビト / フロンテリソ	メキシコ	サービス契約
Ship Shoal 72、 West Cameron 401/402、 Main Pass 117/118	米国	コンセッション契約
コンゴ民主共和国沖合	コンゴ民主共和国	コンセッション契約
ウエスト・バクル	エジプト	PS契約
オハネット	アルジェリア	サービス契約 (リスクサービス契約**)
エル・オアール I / II	アルジェリア	コンセッション契約

\*権益移転に係る政府承認手続中であり、当該契約は政府承認を得た後、正式に発効する予定であります。

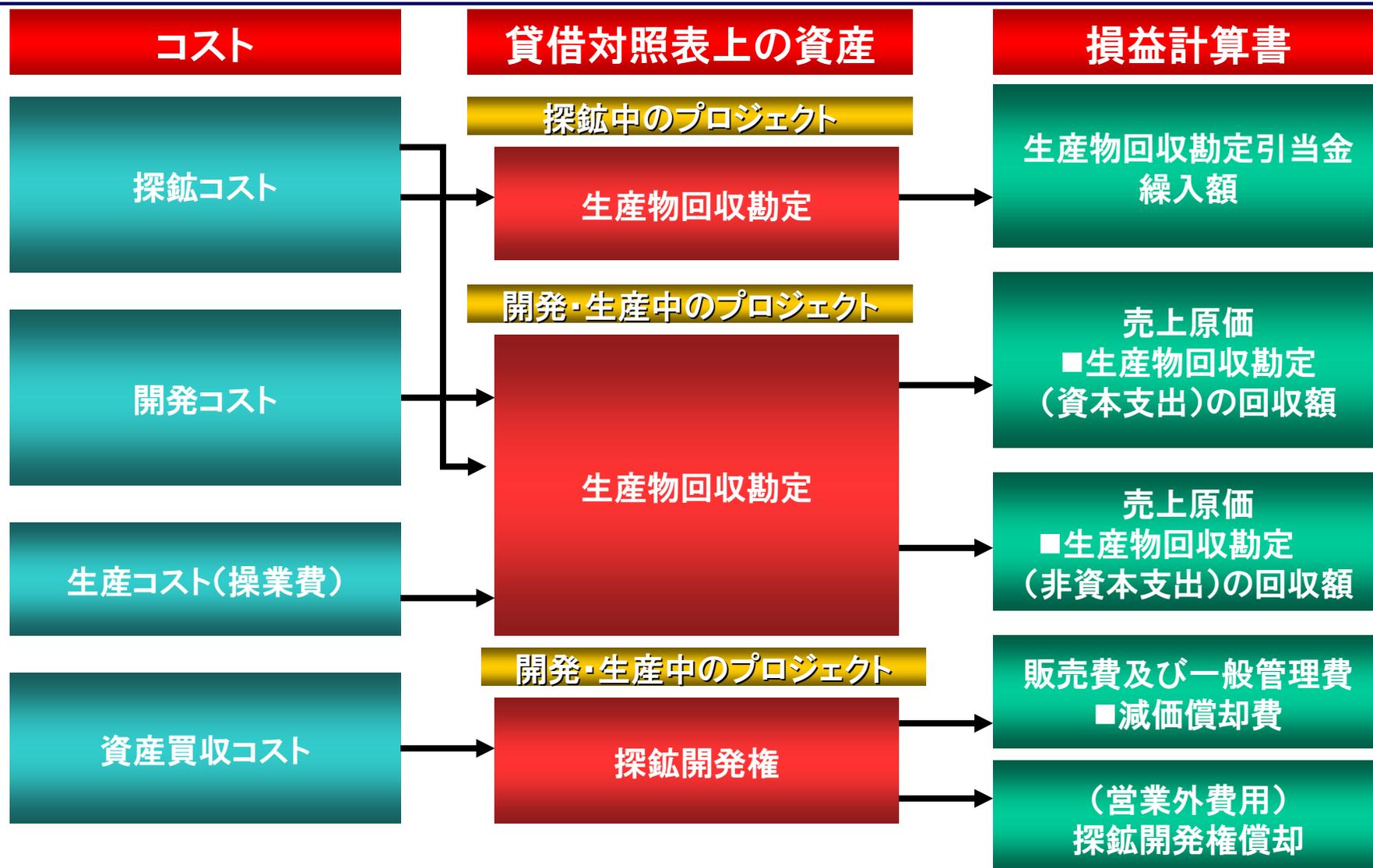
\*\*リスク付き開発請負契約

その他

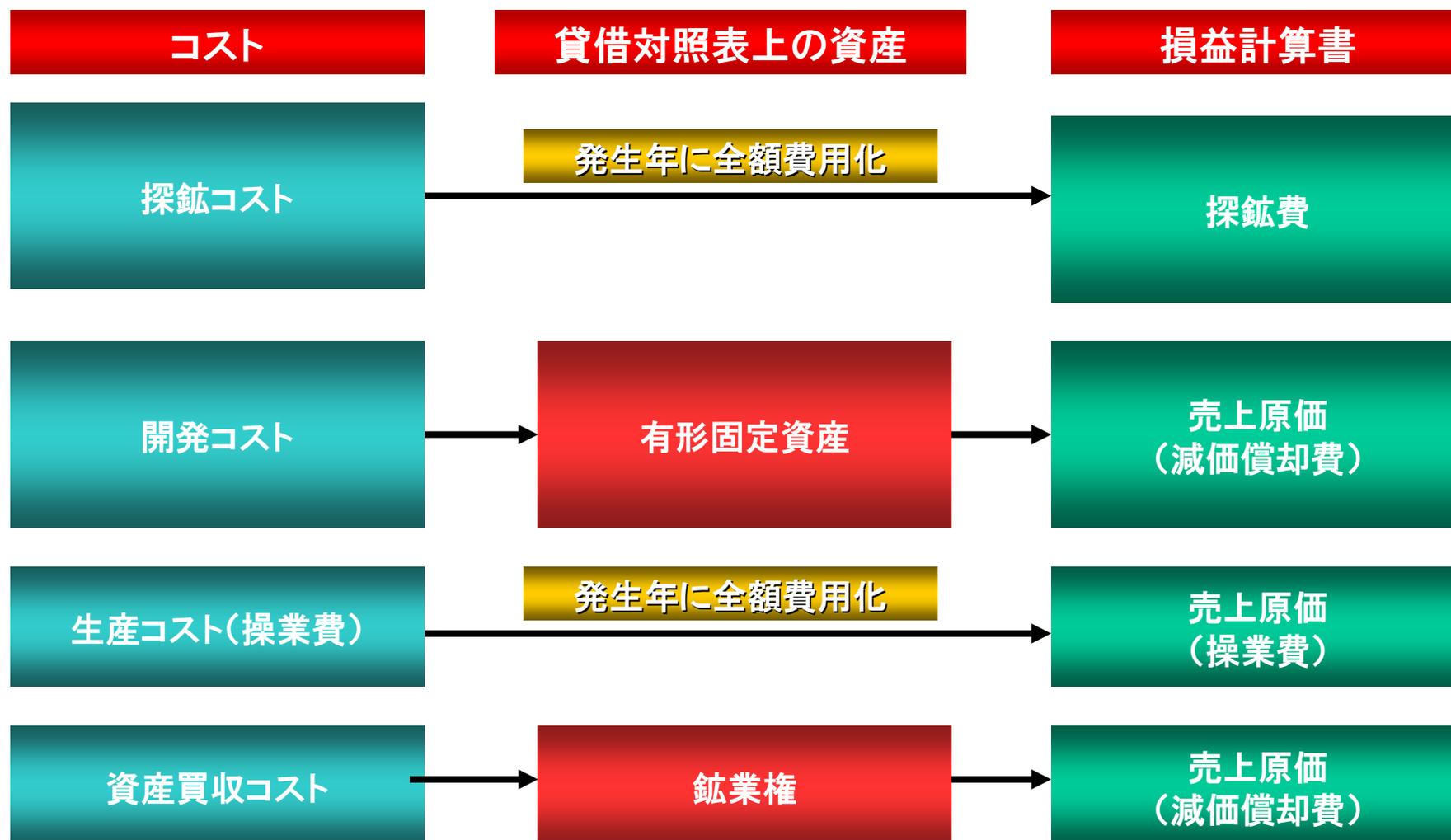
# 生産分与契約



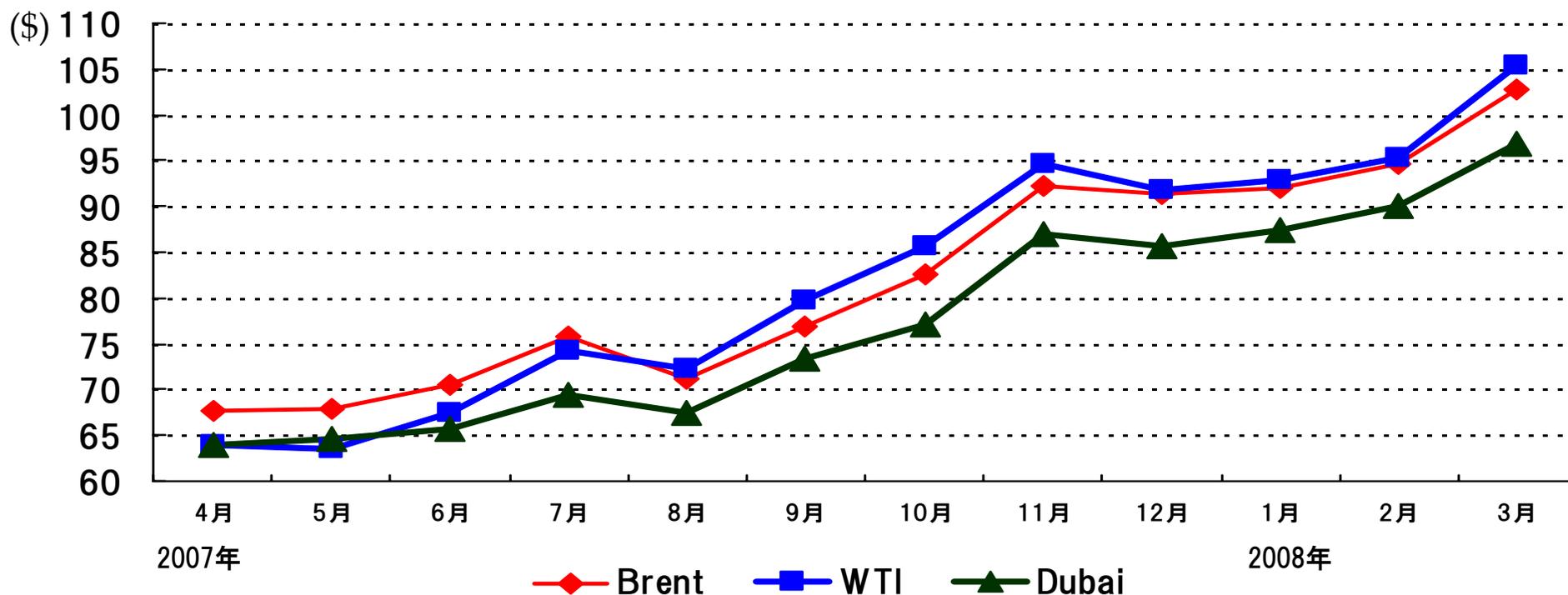
# 生産分与契約に係る会計処理



## コンセッション契約に係る会計処理

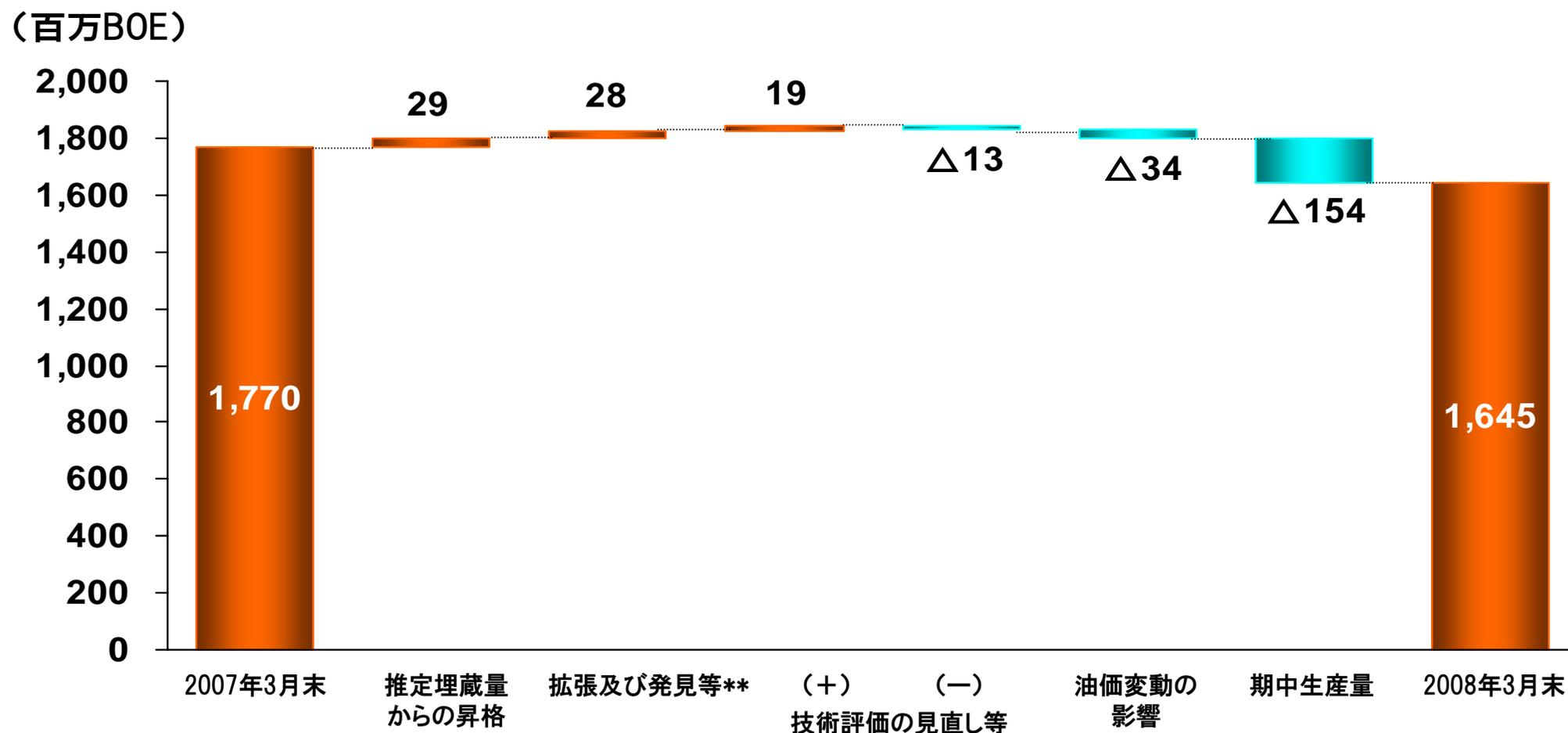


# 油価の推移



	07.3期	2007年												2008年	08.3期
	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
Brent	65.08	67.60	67.86	70.54	75.82	71.24	76.94	82.60	92.20	91.44	91.91	94.66	102.87	82.14	
WTI	64.89	64.04	63.53	67.53	74.15	72.36	79.63	85.66	94.63	91.74	92.93	95.35	105.42	82.25	
Dubai	60.85	63.97	64.61	65.79	69.49	67.38	73.36	77.12	86.87	85.58	87.37	90.02	96.76	77.36	

## 確認埋蔵量\*の推移の要因分析



\* 確認埋蔵量はDeGolyer&MacNaughton社の埋蔵量評価鑑定書に基づく米国証券取引委員会(SEC) 規則に従った数値。持分法適用会社の持分を含む。

\*\*買収及び売却等を含む。

## 確認埋蔵量の定義

---

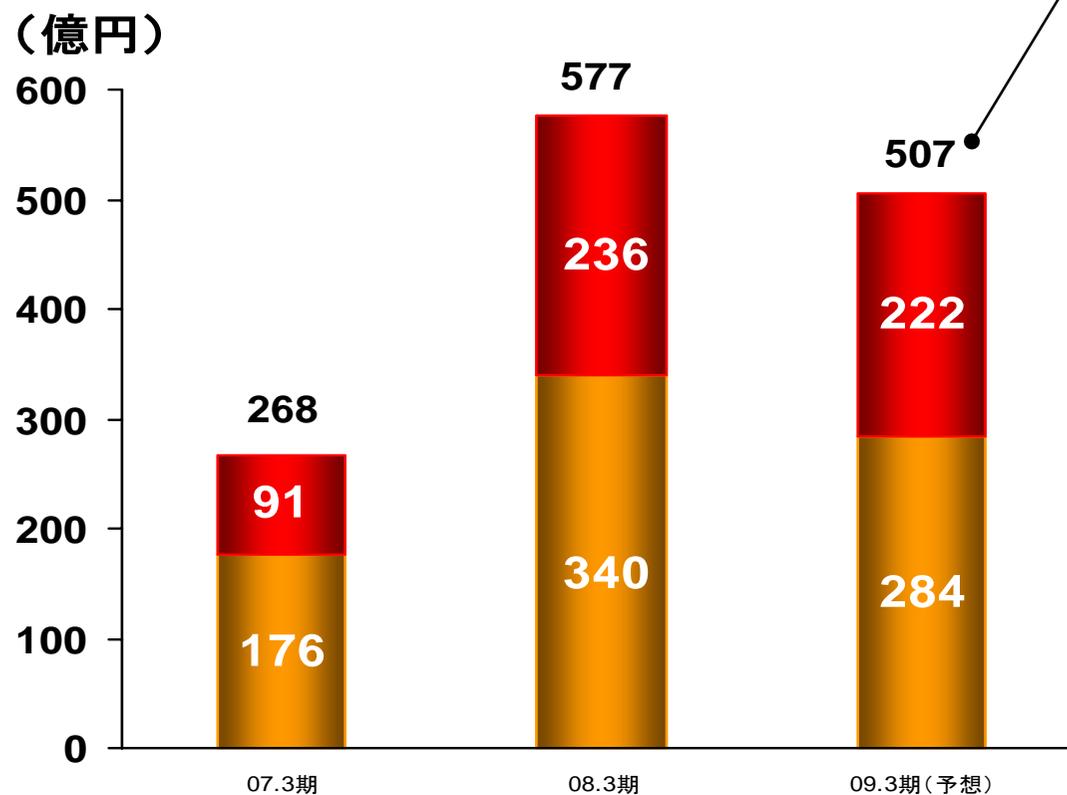
- 確認埋蔵量(proved reserves)の定義は、米国の投資家に広く知られている米国証券取引委員会規則S-X Rule 4-10に従っており、地質的・工学的データに基づき、現在の経済条件及び操業条件の下で、将来にわたり合理的な確実性をもって回収することが可能である原油・天然ガスの数量(estimated quantities)とされております
- 確認埋蔵量に分類されるためには、市場及び経済性のある採取・処理・出荷手段が既に存在するか、あるいは、近い将来に実現することが確実であることが条件となっており、石油・ガス業界で用いられる埋蔵量の定義の中でも保守的な数値として広く認識されております
- また、米国証券取引委員会規則の定義による確認埋蔵量は、既存の坑井及び施設を利用して回収することができる確認開発埋蔵量(proved developed)と将来掘削される坑井及び施設を利用して回収することができる確認未開発埋蔵量(proved undeveloped)の二つに区分されております

## 推定埋蔵量の定義

---

- 推定埋蔵量(probable reserves)の定義は、石油技術者協会(SPE)が世界石油会議(WPC)・米国石油地質技術者協会(AAPG)・石油評価技術者協会(SPEE)の支援の下に策定した基準(2007PRMS)に従っており、地質的・工学的データに基づき、確認埋蔵量に追加して商業的に回収することが可能と推定される原油・天然ガスの数量とされております
- 確率論的手法を用いて推定埋蔵量を算定する場合には、確認埋蔵量と推定埋蔵量を合計した数量(2P)を回収できる確率が50%以上であることが必要とされています
- 米国証券取引委員会規則に基づく確認埋蔵量との違いは、埋蔵量評価時点において、将来にわたり合理的な確実性をもって回収することが可能と認識できるかどうかという点です。新規技術データの追加によって技術的確実性が高まること、新規事業の場合には契約条件の確定・投資の意志決定などによって開発が確実になること等により、推定埋蔵量の一部は確認埋蔵量に格上げされていくことが期待されます

## 探鉱費・生産物回収勘定引当金繰入額予想



2009年3月期はジョスリンやアバディッププロジェクトで探鉱投資額が減少するため、前期比70億円の減少となる。

- 生産物回収勘定引当金繰入額\*(PS契約)
- 探鉱費(コンセッション契約)

\* 探鉱事業引当金繰入額を含む



国際石油開発帝石ホールディングス・国際石油開発・帝国石油・ジャパン石油開発の4社は本年9月下旬、下記に移転する予定です。

■移転先:

〒107-6301 東京都港区赤坂五丁目3番1号

赤坂Bizタワー 31階～34階